



2017

愛媛大学工業会会誌

第31号



愛媛大学工業会

〒790-8577 松山市文京町3番 愛媛大学工学部内
Tel/Fax 089-927-9702(ダイヤルイン)
E-mail: kogyokai @ee. ehime-u. ac. jp
ホームページアドレス <http://www.eu-kogyokai.jp>

新居浜高等工業学校同窓会
新居浜工業専門学校同窓会
愛媛大学工学部同窓会
愛媛大学大学院工学研究科同窓会
愛媛大学大学院理工学研究科(工学系)同窓会

愛媛大学工業会誌 (第31号) 目次

ご挨拶	工業会会長 武田 壽 (機46) …… 1
工学部長の挨拶	
これからの工学系教育の在り方	工学部長 八尋 秀典 …… 2
定年退職に際して	
定年退職に際して	矢田部龍一 …… 3
定年退職に際して	山戸 昭三 …… 4
講演会	
起業と起業で学んだこと	河村 隆二 (院電電H13) …… 5
特集	
高専におけるグローバル学生エンジニアの育成	平澤 英之 (博士物質H20) …… 8
海外研修報告	
ICBIR2016に参加して	廣川 貴大 (院電子情報工学2回生) ……10
インドネシア留学	犬飼 達也 (環建3回生) ……11
ACS2016への参加と欧州滞在	山口 晃右 (院電子情報工学1回生) ……12
留学報告書	大城 一輝 (環建3回生) ……13
第7回ビスマスを含有した半導体に関するワークショップ(上海)への参加	パラビ キサン パティル (院電子情報博士3回生) ……14
国際学会 報告書	太田祐一郎 (院生産環境工学2回生) ……15
国際学会論文発表研修報告書	陸 益峰 (院生産環境工学2回生) ……17
国際学会に参加して感じたこと	安永 将也 (院生産環境工学2回生) ……18
学生活動援助費	
学生活動援助費 (機能材料工学科) – 新入生合宿研修の報告	青野 宏通 (工化61) ……19
学生活動援助費報告 – 情報工学科平成29年度新入生オリエンテーション	樋上 喜信 ……20
支部だより	
茨城支部だより	中村喜久男 (機38) ……21
東京支部報告 2016年4月～2017年6月	鳥海 基忠 (機54) ……22
東海支部活動便り	兵頭 修 (機46) ……23
平成28年愛媛大学工業会近畿支部の総会&懇親会報告	渡邊 武晴 (機42) ……24
岡山支部報告	石井 正男 (機43) ……25
広島支部報告 (H28年度)	河野 徹 (土42) ……26
高松支部活動報告	谷 喜文 (院電53) ……27
高知支部報告	中村 考男 (鉦40) ……28
平成28年度『第24回愛媛大学工業会 愛媛支部総会』報告	木村 正樹 (院機54) ……29
クラス会報告	
工業化学科 昭和38年卒業(第1期生)同期会	渡部 信 (工化38) ……31
機械工学科39年卒同窓会	板井 真澄 (機39) ……32
第13回(平成29年)電気工学科昭和40年卒クラス会	三好 永司 (電40) ……33
生産機械工学科昭和44年卒業同級会	井上 要 (生機44) ……34
第5回 生産機械工学科(42年入学・46年卒業関係)同期会	林 康則 (生機46) ……35
二宮翔会活動報告	
平成カラス12号へ	代表 辻下 新也 (機4回生) ……37
テニス大会	
第38回工業会テニス大会報告	十河 基介 (生機H4) ……38
本部報告	……39
役員一覧	……44
学内近況	……46
訃報	……47
愛媛大学工業会 第二代理事長 故 柳田清實氏を偲んで	顧問 宮崎 道生 (鉦31) ……48
寄付金のお願い	……49
愛媛大学基金について (ご寄附のお願い)	……52

ご挨拶



愛媛大学工業会会長

武田 壽
(機46・博士物質H21)

工業会会員の皆様には、日頃より、本会の運営にご協力をいただきありがとうございます。今年も暑さだけでなく、異常な気象が続いていて、例年の通り厳しい状況です。会員各位におかれましても、健康に留意されますよう、ご自愛ください。九州北部豪雨や、熊本地方の災害などで尊い命をなくされた方々に哀悼の意を、また罹災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

まず、会員各位へのご報告として、今年は理事会の開催をメール会議方式で行いました。理事会の議案事項を各理事へメールで送付して、賛否やご意見をメールでご回答いただき、その一部の議案とその他案件については、5月21日の役員会に先立ち、同日開催した理事会で議論していただきました。会則に基づいて、かつ理事会と役員会の役割分担も効率よくできたものと思います。

議事の案件については、常任理事会で何度も討議を重ねていただき、新しい形での理事会および役員会が開催できました。役員各位の力で、これからの工業会の新しい方向づけができたものと感謝しております。また愛媛大学の基金室への協力や、支部特別活動への支援など新しい施策を盛り込むことができました。

支部長の皆様におかれましては、お忙しい中で遠路から理事会および役員会にご参集いただきまして、御礼申し上げます。また開催に際して準備などに携わられた役員各位・事務局に感謝しております。そのお蔭をもちまして、役員会にて承認されました「平成29年度事業計画及び予算案」を、皆様のご協力を得ながら、「平成29年度の事業」として活動することになりました。なお、「平成28年度事業報告及び決算報告」につきましても、監査報告を含めて役員会で承認されました。

今年度の事業計画では、「愛媛大学基金室へ

の支援」、「支部活動への支援」など支出の増加が見込まれますが、「理事会と役員会の同日開催」による会議費や他の通信費などの削減策も見込んでいます。そして、「役員改選」は、定期的に学内委員の交代が中心ですが、逝去された方々、体調などで辞退を申し出られた方につきましても承認されました。「会則の改訂」は、支部特別支援に伴う事項と、解釈上の疑義のある事項です。「ホームページ」は、各支部総会の案内やその活動報告などが各支部を通じて掲載され、また「名簿管理」も、担当された常任理事や各支部担当委員の方々には、お忙しい中でのご協力ありがとうございます。

さて、今年度は、愛媛大学工業会として、78周年になります。つまり2年後は80周年となり、5年に一度の総会の年に当たります。工業会会員の皆様から、より期待される「ホームページ」と「名簿管理」など、また時代に即した「総会のご案内」（例えばメールまたはハガキでの案内とホームページの組合せ）など検討課題があります。

「工業会会則」も見直しが見られ改訂を重ねておりますが、諸先輩方のお考えが込められた「工業会会則」の精神に則り、工業会の「会員相互の親睦を図る」という目的に沿った「事業」、「支部活動」、「大学運営への参画」など工業会の運営を、工業会会員の皆様のご意見を踏まえて、一緒に進めていきたいと思っております。

新しく会員となりました諸氏にも、工業会の事業を理解していただき、工業会の事業および各支部活動へ参加していただきたく、またこの会誌が無事お届けできるよう、「連絡先」などの「情報提供」をお願いいたします。

最後になりましたが、愛媛大学、また工学部・理工学研究科、そして校友会と各学部・同窓会・後援会各位の今後益々のご発展と、工業会会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念しております。

工学部長の挨拶 これからの工学系教育の在り方



愛媛大学工業会名誉会長（愛媛大学工学部長）

八尋秀典

愛媛大学工業会会員の皆様には日頃より愛媛大学工学部に対しまして、一方ならぬご支援を賜り

まして心より御礼申し上げます。工学部長を拝命して2年目になります。昨年度は初めてのことばかりで、四苦八苦していました。ようやく、今後の工学部および理工学研究科（工学系）を発展させるためにどのようにしたらいいのかを考える余裕ができてきました。

さて、国立大学法人は平成16年に法人化されて2期12年が過ぎ、第3期の中期目標期間に突入しました。工学系では、産業構造の変化に機動的かつ迅速に対応できる人材の育成が望まれており、工学基礎教育の充実、幅広い知識の涵養、タコツボ化専門教育の解消、課題解決型授業の促進、社会人教育の推進など大幅な教育カリキュラムの見直しが求められています。これらを実現するために、ここ2、3年の間に各大学で教育大改革が進んでいます。

多くの地方大学は「地域」との連携を主軸とした人材育成を目指す大学群に入っています。地方では人口減少、18歳人口の流出、それに伴う産業の活力の低下が問題となっています。愛媛県も18歳人口の流出が多い地域の一つであり、各自治体は地元への若者の定着あるいは都市圏からのUターンを促進するために、奨学金の給付や就職の斡旋など多くの取り組みを行っています。愛媛大学も地元就職率を50%まで引き上げる重要評価指数（KPI）を設定しています。これは安倍内閣の地方創成「まち・ひと・しごと」で地方が成長する活力を取り戻し、人口減少を食い止める政策と同期していることは間違いありません。一方で、工学部を卒業した学生が活躍できるフィールドは地域にとどまらず世界中にあるはずで、正岡子規や「坂の上

の雲」の秋山兄弟など松山で生まれ、育った歴史的著名人も中央でその実力を試したものです。時代が変わっても中央に打って出るくらいの気持ちを持った学生を地方大学においても育てる必要があると思っています。特に地方大学はこれから20、30年先の社会の変動を予測し、組織的な大学運営を行わなければいけないと感じています。

上記のような流れの中で、愛媛大学工学部は平成31年度改組に向けて動き出しています。「変化する産業構造に幅広い知識で柔軟に対応する力（柔軟性）、グローバルに活躍できる行動的な力（実践性）、地域の工業をイノベーションする力（創造性）を養う」をスローガンに、機械工学科、電気電子工学科、機能材料工学科、応用化学科、環境建設工学科、情報工学科の6学科の教育体制から、大きな括りでの教育体制に移行するよう改革を進めています。愛媛大学工学部の諸先輩方が築いてきたこれまでの歴史および強みを受け継ぎながら、新しい時代に向けた人材育成ができる教育プログラムを築きたいと思えます。特に工学部は産業と直結している学問体系なので、我々大学人だけでは先が見通せないことも多くあります。そこで、本年度より、地域のステークホルダーの方のご意見を頂くための、「理工学研究科（工学系）カウンスル（カウンスル＝委員会）」を設立しました。地域の皆さんにも我々の目指すところをご理解いただき、ともにこれから活躍できる工学系人材の育成を目指したいと思います。愛媛大学工業会会員の皆様におかれましては今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、愛媛大学工業会会員の皆様の益々のご健勝とご発展を祈念するとともに、今後とも愛媛大学工学部の活動に対しまして、一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。

定年退職に際して



矢田部 龍 一

昭和54年4月2日(月)に愛媛大学工学部海洋工学科助手として教員生活のスタートを切った。それから38年、平成29年3月31日(金)に定年を迎えた。関係者に心より感謝する。

大学教員としての生活は、前半の2/3はのんびりとした環境で、残りの1/3は法人化もあり、何か世知辛い雰囲気の中でのものであった。38年も勤務したので様々なことに取り組んだ。それらの中で、ネパールでの総合防災研究の推進、防災情報研究センターの設立、それと国際連携推進機構の設置が印象に残っている。

ネパールの総合防災研究の発端は、1993年にJICA短期専門家として4か月間、ネパールのカトマンズにあるユネスコの研究機関ICIMODに赴任したことにある。ICIMODに赴任して間もなく、カトマンズ周辺は1,500人近い犠牲者が出るほどの大規模な豪雨災害に見舞われた。連続雨量で500mmにも達するような豪雨により、無数の土石流や斜面崩壊、そして洪水が発生した。この災害を前にして、住民の防災知識の欠如を痛感させられた。犠牲者を減らすためには防災教育の導入が効果的である。しかし、ネパールに防災教育を導入するための権力も資金力もない。いつの日かネパールからの留学生を育て、この国に防災教育を根付かせようと決意して帰国の途についた。

4か月間のネパール滞在から帰国後、早速、ネパールからの留学生を受け入れた。今、社会共創学部で准教授として活躍しているネトラさんが第1号である。彼が来てからネパールでの防災研究と防災教育の実施方法が見えてきた。そして、2003年からは、毎年、科研費を獲得してネパールの自然災害研究を行うとともに、国際シンポジウムの開催や専門書の発刊などを行い、ネパールにおける愛媛大学の防災研究の地位を築くことができた。また、人材育成に関し

ては定年までに14名のネパール人に博士学位を出すことができた。ネパールでの十数年にわたる防災研究と防災教育の取り組みにより、ネパール政府から各種の表彰を受け、また、ルンビニ訪問年名誉親善大使に任ぜられるなどした。しかし、防災教育の学校カリキュラムへの導入はまだ道半ばである。今後も精力的に取り組みたい。

平成16年の台風災害は愛媛県にとって記録的な出来事であった。8月から10月にかけて毎週のように台風が襲来し、東予地域を中心に甚大な被害が出た。愛媛大学では自然災害学術調査団を組織し、精力的な調査を行った。しかし、今後、頻発すると予想される大規模自然災害発生に際して迅速な調査実施のためには防災関連のセンターの設置が必要だと痛感させられた。そこで、平成18年4月1日に愛媛大学防災情報研究センターの設置に漕ぎつけた。また、平成23年3月11日には東日本大震災が発生した。それを受けて西日本の太平洋岸を襲う南海トラフ巨大地震対応への防災情報研究センターの役割は大きくなっており、愛媛県民からの期待も高くなっている。防災情報研究センターの活動が大規模自然災害から一人でも多くの生命を守ることを期待する。

また、国際連携推進機構の設置も記憶に残る取り組みであった。世界はグローバル化し、一日生活圈の時代を迎えているのに、愛媛大学の国際化は少し遅れていた。そこで、当時の小松正幸学長のリーダーシップの下、平成18年4月1日に機構を開設した。インドネシア、ネパール、そしてモザンビークなどの各国の交流協定締結大学との先進的な交流実施を通して愛媛大学の国際連携活動を一気に活性化させることができた。愛媛大学の1万人近い学生全員が卒業までに海外留学を経験し、全学生の10分の1にあたる1,000名の留学生が在学するような国際的な大学になることを願う。

定年退職に際して



2017年3月31日に愛媛大学大学院理工学研究科を定年退職しました。在職中は、公私にわたり、ご指導ご鞭撻いただき、本当にありがとうございました。

松山市は、温暖な気候で私にとって初めての土地でもあり愛媛大学の周りをよく散歩しました。大学の裏には、神社やお寺が連なっており、ロシア兵墓地にも行ってみました。松山城の桜やそこから見える青い瀬戸内海、大街道や道後温泉街の賑やかさ、夕陽の中に走っていく市内電車や踏切の音、ひそかに特訓した英会話の仲間のことなど、懐かしく思い出しています。

愛媛大学では、プロジェクトマネジメント特論、技術者倫理特論、PBLのように企業経験を踏まえた科目を担当し、チーム活動の支援や学生の相談相手をしていました。いろいろなタイプの学生がいて、自分からふらっとやってきてあれこれ質問やら相談する学生、引っ込み思案で縁遠い学生もいました。

私は、実務家教員であり、日本電気株式会社、九州日本電気ソフトウェア株式会社で、SEやプロジェクトマネージャを経験し、主に自治体・公共市場向けのシステム開発を行ってきました。お客様、営業部門、協力会社との交渉や調整は、利害関係が厳しく、結構ストレスのかかる生活でした。その経験を踏まえて、社会に出る前の学生に、学生生活を大切にしながら、目的志向で、一生懸命、学んで欲しいと思っていました。学生は、同じ世代の学生とコンタクトするだけでなく、これはと思う教員の居室のドアをたたいて、質問・相談・対話などを行うことも大切なことと思います。

キャリアマネジメントの世界には、計画的偶

山 戸 昭 三

発性という理論があります。人生は綿密に計画しても、なかなか計画通りには進まないのだが、日ごろから進みたい方向や学びたいこと、疑問に思っていることをいつも考えているとそのうち望ましいキャリアに向けた絶好のチャンスや人が現れる、というものです。そして計画的偶発性を起こす要素として、好奇心、持続性、楽観性、冒険心、柔軟性の5つの性格が重要と言われています。私も、これまで生きてきた経験の中で強く、そう思っています。進路に大きくかわるアドバイスの多くは、「私にとっての多くの恩人」から受けていると実感しています。

私はこれまでの経験に基づき、次のキャリアに関する8つの教訓を考えました。

- ①自分の人生に大きな影響を与える人がいる
- ②人生は七転び八起き
- ③自分の将来に結び付けて仕事に興味を持つ
- ④仕事を通じて自分の社会的価値を高める
- ⑤徹底的に準備せよ（プロジェクトマネジメントのツールと技術を駆使せよ）
- ⑥勉強を続けるプロセスを創りだす
- ⑦良い学習ツールを見つけて使いこなす
- ⑧自分からチャンスをつかんで行こう

学生の皆さんは、是非、計画的偶発性を信じて積極的に行動してみてください。

4月1日からは、市ヶ谷の法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科で、経営情報戦略、生産マネジメント、経営診断実習などを社会人学生たちと対話しながら教えています。若い人との対話は刺激もあり、楽しいものです。毎日、緊張しながらも充実した日々を送っています。

起業と起業で学んだこと

イノテック株式会社 設計解析ソリューション部
部長 河村 隆二 (院電電H13)

1. はじめに

私は、愛媛大学大学院理工学部電気電子工学科を2001年に修了しました。その後4年間の社会人経験の後、2005年にギガヘルツテクノロジー株式会社を3人の仲間と共に立ち上げ、様々な苦難を乗り越えつつも、多くの支援者に支えられて、事業を立ち上げ、黒字化を果たし、一部上場企業であるイノテック株式会社と一つになり、現在に至ります。講演では、学生の方に対して、今後の就職活動やその後の社会人となった後のヒントになればと、起業の体験談とそこから学んだことをシェアさせて頂きました。



当日の講演の様子

2. 起業体験談

起業体験談は、①学生時代での経験、②社会人での経験、③ギガヘルツテクノロジーの設立の3つに分けてお話ししたいと思います。

2-1：学生時代での経験

学生時代は、大学生活をエンジョイしながらも所属した陸上部での練習に没頭しました。私は100メートルを専攻していましたが、体格にもあまり恵まれているわけではなく、目覚ましい結果を得ることは出来ませんでした。しかし

ながら、同じ部に所属していた中四国のチャンピオンになるほどの一流のアスリートの方と一緒に練習する機会があり、今思うと、その方々の結果を出すためのプロセスと方法論、そして達成のための情熱などそこから多くのことを学びました。

私が所属した研究室では、恩師の小野和雄教授のもとで円形曲がりNRD導波路に沿う正規モードの解析というテーマで研究していました。内容は大分忘れてしまいましたが、自由に研究させて頂ける環境で、そこで培った思考力と研究テーマが社会人になってから大変役に立ちました。また、陸上部を早々に退部し、大学生活を満喫していた友人と偶然数学の授業で再会し、その後連絡を取り合いお互いを刺激しあう良い仲間になりました。その彼と実は起業することになるとはその時の自分には想像も出来ませんでした。

学生の一大イベントは就職活動ですが、就職活動では将来の進路に大いに悩みました。自分には何が出来るのか、何がしたいのか、今の彼女との未来はどうするのか…。

最終的には、県外にも内定を得たものの、愛媛の企業に就職することになりました。この頃から、漠然と将来社長になりたいという思いを持つようになっていました。

2-2：社会人での経験

愛媛の企業に就職した私は、社長に直訴し、大手メーカーの派遣社員として働く機会を得ました。最初の数年で高い技術を習得することが非常に重要だと考えたからです。とにかくやる気を前面に出してがむしゃらに仕事をして自分分は、大手メーカーの部長の方にも気に入られて、以後の天職となるノイズ解析による設計効率化という新たな部門を立ち上げるための新

部署への異動を果たします。ノイズ解析とは、ハードウェアの誤動作の原因となるノイズを解析技術や測定などによって可視化し、その問題の原因を特定し、修正を支援する業務です。

今では当たり前のように存在する分野ですが、その当時は問題が発生すれば設計者がカットアンドトライで問題修正検討を行い、改善したように見えても場合によっては量産後に問題が再燃することもありました。この分野は将来有望だと感じた自分は、この領域を自分の天職にすることを決め、一心不乱に勉強しました。昼休み中も、空いた時間も、業務終了後も過去の資料や技術文書を読み漁り、この分野において1年で会社で一番になることを目標にし、とにかく人の何倍も努力しました。

結果として、1年後には自分しか出来ない領域を構築し、社内外のハードウェア設計者からの信頼も勝ち取れるようになっていました。更に、派遣先の上司の方より、回路シミュレータの書籍を執筆しているエンジニアをご紹介いただき、そのきっかけで、起業が現実味を帯びてきます。そのエンジニアと投資家とのつながりがあり、ビジネスプランを作成し、新たな起業を立ち上げ、投資を頂き、その資金で新しい事業を立ち上げるというのです。技術一辺倒だった自分はこんな世界があるのかと衝撃を受けると共に、新しい挑戦にワクワクしました。

2-3：ギガヘルツテクノロジー設立

投資家の方の支援を頂きながら、国産の回路シミュレータを開発するというテーマでビジネスプランを作成し、会社設立を行うプランが持ち上がり、新たな技術の習得のため、通常の業務をしながら深夜に勉強し、準備を進めました。最初は50歳前後の方2名の下でエンジニアとして参画の予定だったのですが、実現に近づくにつれて、起業そのものに尻込みしはじめたその2名に対して、“私が会社を作ります、そこに参画して下さい！” どうせやるなら自分が主体で進めたいと、そのように提案し、会社は私を含めた若手3名で設立することにしました。

所属していた会社を辞め、これまでずっと住んでいた愛媛を離れ関東に拠点を移し、結婚を

決め、会社の創業者・代表取締役になりました。その後、投資家の方から投資の承諾を頂きました。人生を賭けたその時のプレゼンテーションは今でも忘れません。研究開発のフェーズでは基本的には売り上げはほぼゼロで、研究開発に没頭します、資金は株主からの出資や、銀行からの借入れ、足りなければ受託業務などで食いつなぎます。開発マイルストーンを設定し、定期的に株主に報告しながら、進めていきます。

我々が開発を目指したのは、半導体設計向けの汎用の回路シミュレータをより大規模解析が可能にしつつ、10倍以上高速化させることで、これまでの設計検証工程を大きく進化させるというものです。開発は順調には進んではいたのですが、同様なコンセプトの企業が次々と出現したことで、方向性の見直しを余儀なくされ、私が社会人の時に経験したノイズ解析用途の回路シミュレータに作り変えることで、更なる大規模解析、高速化（100倍以上）を実現し、市場に受け入れられることになりました。ここまで来ると、次のステップである営業フェーズに移行します。それまで製品開発のみを行っていた私達には以後の具体的なビジネス化の知見を持ったメンバーはいませんでした。そのため、ビジネスメイクが出来る経営者を加える必要がありました。その際、一度名刺交換しただけの、とある上場企業の社長に思い切って連絡し、紹介をお願いしました。ご紹介頂いた方に何度も断られながらも最後には承諾して頂き、そこから資金調達、大きなリスクチャーターを経て、会社を新しい形に作り変えました。約3年間打ち込んだコアテクノロジーをベースにした新ツールの開発、開発したツールを用いたサービス事業の展開など新たな取り組みを行いつつ、経費と売り上げ、資金回収時期などを管理する仕組みを作り上げ、黒字化を目指しました。そして、営業フェーズに到達して3年後に単年黒字化を達成し、それ以後は毎年黒字化を維持出来る会社に成長しました。

この時点で、会社設立後約10年が経過していました。当初出資して頂いた投資ファンドの期限が近付いていました。ギガヘルツテクノロジーは黒字化は実現しているものの、上場できる

レベルのサイズまでは成長出来ておらず、別の出口である企業買収を視野に入れる必要がありました。投資家のこと、現在の社員ことなどを考え、イノテックの中に統合し、グループ内でのシナジーを発揮することで新たな事業化に挑戦する道を選択しました。現在は新規事業開発を行っています。

3. 起業から学んだこと

3-1：夢と目標の重要性

目指すべき夢と目標を設定することはとにかく重要です。私の場合には、定期的に目標設定し、紙に手書きで書いていたのですが、気がつくと達成しているということが多かったです。

3-2：経営者の視点を持つ

経営者の視点において、従業員は資産の一つです。その資産をうまく活用し、事業目標を達成するにはどうすれば良いかと考えています。これから新社会人となられる皆さんは、常に費用対効果を意識し、自分に支払われる給与等の費用以上の価値（売り上げなど）を会社に提供出来ているかを常に自問し、業務改善を行いつつ、継続的に勉強し、スキルや技術を磨き続けなければなりません。

3-3：事業を通じての変化

最初から崇高な動機でなくても良い、自分の自我の実現であっても、劣等感であっても、不安であっても、とにかく、半端ない熱量で必要な起業のエネルギーを生み出さなくてはならない。

企業が長く続くにつれて、健全な企業運営がなされていけば、顧客に対する貢献が一番の動機へと変化していく。

3-4：役立つ言葉

これまで様々な方々に教わった言葉で、特に有効と思った言葉を列挙します。

- ・ロケットを飛ばすのは膨大なエネルギーが必要だが大気圏を超えた後のエネルギー消費は少ない

特に20代の方に贈りたい言葉です。20代でしっかり努力すれば、その後の基盤を作り上げることが出来ます。

- ・1週間ごとに進化

尊敬する投資家の方に教わった大事な言葉です。1週間ごとに進化するぐらいのスピード感がベンチャー企業には必要です。

- ・1日に出来ることは想像以上に小さいが10年で出来ることは想像以上に大きい

目の前の一步を着実に前に進めることで、10年間で想像出来ないところまで進める（成長する）ことが出来る。

- ・結果を出している人を観察し、違いをもたらす違いを意識せよ

この視点を持つことで、努力に対してより良い結果を出せるようになります。

4. 最後に

講演後、参加した学生の方から感想を頂きました。全ての感想を大切に読ませて頂きました。良い悪いは別にして、私のような20代、30代を歩んだ人間は多分少ないと思いますので、そこから学んだ経験を少しでも今後の人生に活かしてもらえることを、切に願って、締め言葉とさせて頂きたいと思います。

講演当日には、恩師の小野和雄（元）教授にもお越し頂き、15年ぶりにお会いでき、講演の前にご挨拶を頂いたこと深く感謝します。また、このような機会を頂いた先生方および愛媛大学工業会の皆様に感謝いたします。

高専におけるグローバル学生エンジニアの育成

新居浜工業高等専門学校環境材料工学科
准教授 平 澤 英 之 (博士物質H20)

1. はじめに

最近、エンジニアの方々との会話の中で、「マニュアル型人間」、「指示待ち思考」という言葉をよく耳にするようになってきた。理工系卒であるにも拘らず技術の習得に受動的であり、極端な話になると、ネジを回す方向が分からない新社会人や、ノギスを初めて見た大学院修士など、耳を疑うような事例を実際に聞いている。確かに、授業の休憩時間になると、一斉にスマホを触り始める学生達を目の当たりにしていると、やはり与えられることに慣れており、主体的に何かに挑戦し、成功したという経験が不足しているのではないかと強く感じている。このようななか、高等教育機関の一教員として、未だ正鵠を射た答えは見出せていないが、グローバルに活躍できる実践的なエンジニアを育成するため、筆者がこれまで新居浜工業高等専門学校（新居浜高専）において奮励してきた、ものづくり教育について紹介する。

2. 廃棄自転車で通学路に光を

新居浜高専は、1962年に愛媛大学工学部（旧制新居浜工業専門学校）の松山市移転に伴い、跡地に設立された国立高専である。そのため、愛媛大学当時の名残も多く、今でも学生寮は「雄風寮」の名を継ぎ、年号を超えて親しまれている。時代の変遷に伴い、現在の高専教育においても、グローバル化や科学技術の高度化に対応し、複合的な問題を解決できる技術者の養成が求められるようになってきた。そこで、筆者の所属する環境材料工学科では、学生がこれまでに学んできた知識を活用し、自由な発想でものづくりを行う『材料創成デザイン演習』を開講している。これは、毎年異なる課題を提示し、ものづくりをしながら問題解決に取り組む授業であり、平成28年度の本実習では、校内に放置

された廃棄自転車を再生利用し、流水式水力発電装置を製作する授業を実施した。学生は、実習当初自転車の構造も水力発電の仕組みも全く理解できておらず、これまで言われるがままに使用してきた工作機械を、恐る恐る使用して加工している様子であった。しかし、回を重ねるごとにものづくりにも慣れ、新しいアイデアを積極的に発案するようになり、とうとう完成させた水力発電装置がLEDライトを点灯させた時には、大きな歓声が上がっていた。完成した水力発電装置は、新居浜市土地改良区と連携して実際に農業用水路に設置させてもらい（図1）、小中学生の通学路を明るく照らすことで、登下校時の防犯・事故防止に活用されることとなった。本実習を終えた学生は、これまでに学んできた工学の知識が、実際に地域社会のために貢献できることを実感し、技術が人々の生活を豊かにする喜びを経験することができたと述べている。なお、本実習による取り組みは複数のメディアによって報道された。



図1 水力発電装置を設置する学生

3. 専攻科生による国際会議発表を義務化

筆者は現在、がんの新しい治療技術である「交流磁場焼灼法」の実用化を目指し、交流磁場中



図2 専攻科学生による国際会議発表

で自己発熱する磁性微粒子材料の研究を行っている。本校環境材料工学科では、4年次の後期から卒業研究の配属が決定し、学生は卒業までの約1年半研究を行うことができる。また、高専の本科を卒業後、専攻科課程に進学した学生は、さらに2年間研究を継続することができるため、より高度で専門的な研究を進めることができる。そこで筆者の研究室では、専攻科生による国際会議発表を必ず達成すべき目標として掲げており、これまでの9年間で学生による13件の国際会議発表と英語論文3件の投稿を行ってきている(図2)。本取り組みにより、国際会議発表を経験した学生は自身の研究に対するモチベーションと責任感が大幅に高まり、さらに高専生の弱点である英語学力も飛躍的に向上している(国際会議を経験した学生のTOEICスコアが平均約200点上昇)。

4. 海外共同研究者と学生が連携

当該研究室では、交流磁場中で発熱する磁性材料の学術的理解を深めるため、モンゴル科学アカデミーのD. Sangaa教授、ロシア合同原子核研究所のA. Balagurov教授、およびモンゴル国立大学のN. Tsogbadrakh教授と共同で、フェライト微粒子材料の磁気構造解析を行っている。そこで、本研究室で合成したサンプルを送付するなど、海外共同研究者と連携する際には、学生が直接連絡を取りあうようにする体制を構築しており、これにより、共同研究者によ



図3 専攻科学生によるモンゴル国でのシニアインターンシップ

るShanghai Synchrotron Radiation Facility (Shanghai) でのXAFSやJoint Institute for Nuclear Research (Dubna) での中性子線回折結果などを学生がいち早く知ることができるになっている。また、共同研究者のもとで、専攻科生による約1か月間のシニアインターンシップを実施しており(図3)、海外のスペシャリストの意見や装置に触れることで、世界を意識した視野の広い技術者の養成を心掛けている。

5. おわりに

近年、アクティブラーニングと呼ばれる教育手法が注目されており、学生が能動的に学修する力に加え、教養、判断力、人間性などの汎用的能力も統合的に育む事が重要であると考えられている。筆者は、学生がアクティブに学修するためには、教員からの直接的な強制力ではなく、周囲の環境からある程度能動的に動かざるを得ない状況を作り出す、間接的『強制アクティブラーニング』が有効であると考えており、そのためには、地元企業・産業界・海外共同研究者・メディア・地域社会など、学外との協力関係が極めて重要であると感じている。皆と協力することで乗り越えられる課題があり、その成果を社会に発信することができれば、学生は本気になる。将来の日本を担う若きエンジニア育成のため、学外からの温かい支援と協力を心から願う所存である。

ICBIR2016に参加して

大学院電子情報工学専攻博士前期課程

2回生 廣川 貴大

この度、5月12、13日にタイのバンコクで開催されたINTERNATIONAL CONFERENCE ON BUSINESS AND INDUSTRIAL RESEARCH (ICBIR) 2016に参加する機会をいただきました。私はこの学会にて、ICTスペシャリスト育成コースで開発されたコミュニティバス運行管理システムについての発表を行いました。担当教員の小林真也教授に勧められての参加でしたが、学会への参加を通して貴重な経験ができ、参加してよかったと感じています。特に、論文を書きプレゼンの準備をしたことは、知識を獲得することより勉強になりました。

5月のタイは非常に暑く、駅からホテルまで2キロの道のりを歩いたことを後悔し、それから移動などの際には配車サービスのUberを使用しました。Uberで車を頼むと裕福そうな若い男性がキレイな車で迎えに来てくれました。ショッピングモールには平日なのに多くの人で賑わい、学生のスマホからはLINEの通知音がしていました。私が現地で調達したSIMカードで使ったインターネットは、日本と遜色なく

らい快適でした。そのようなことから思うことは、小学校中学校の頃に新興国として認識していたタイが、目覚ましい発展を遂げており、今後社会人として仕事をしていく上で、グローバルな視点を持つことの重要性を感じました。

現地の人はとても優しく、トラブルに遭った際には正義感を持って対応してくださる人もいて、とてもありがたく感じました。また、帰国後にタイの同年代の学生と交流する機会があり、彼らも私の就職活動を心配して求人フリーペーパーを持って帰ってきてくれるほど心優しい人たちでした。外国人との交流の際に言語というものは大切な要素ですが、相手のことを思いやることは、外国人相手であろうと日本人相手であろうと変わらないのだと感じました。

最後になりましたが、ICBIRに参加するにあたり援助をいただきました愛媛大学工業会の皆様に、厚く御礼を申し上げます。また、論文発表にあたり指導していただきました、小林真也教授、黒田久泰准教授、遠藤慶一講師に深く感謝を申し上げます。



小林真也教授（左）とICBIR2016会場の泰日工業大学前にて

インドネシア留学

環境建設工学科

3回生 犬飼達也

今回、交換留学という形でバンドン工科大学（インドネシア）にて、約5ヶ月のあいだ滞在させていただきました。その生活がどのようなものだったのか、報告致します。

まず、生活の基盤ができるまでがかなり大変です。会話ができないのはもちろんのこと、Wi-Fiがない場所では携帯電話も使えず、また頼れる人もいませんので、自分達で考え行動する力が必要となってきます。その中でも一番大きな問題だったのが、どこに行けばいいか分からない、という問題です。ジャカルタの空港に無事ついて、予約していたタクシーを見つける手段もなく、いろいろな人に聞き、ようやく大学に到着しても、そこでもまた誰を頼ればいいのか分からず立ち往生しました。そのような困難が多々あります。寮に無事ついた日は、疲れてすぐに寝てしまったことを覚えています。ただ、インドネシアの方々はとても親切なので、迷わず聞くことが大事だと感じました。

生活の基盤を作るためにまず行った方がよいと思うことは、まず同じ大学で頼れる先生、また生徒を作ることです。次に、Wi-Fiもしくは携帯電話を購入することです。しかし、それらのものを購入するには現地の方に助けてもらう必要がありますので、早く友達を作ることが最重要です。その他にも色々ありますが、この2点は特に大事だと思います。

また、寮にいた日本人の留学生にも色々とお話をいただき、いろいろな人のおかげで生活の基盤を作ることができました。生活の基盤を作るのに、1週間ほどかかったと思います。この時期が一番大変でした。1週間ほど経つと、不思議と少しずつ会話もできるようになりました。

次に感じたのは、食の違いです。何度もおなかを壊します。トイレには基本的にトイレトーパーがないので、常に携帯しておくことをお勧めします。インドネシア料理は、日本食に比べると口に合わないと思います。また、基本

的に日本に比べお店の清潔感がないので、はじめは抵抗があるかと思います。しかし、慣れればなんてことはないです。また、寮の近くには、いい店がたくさんあります。日本に比べ物価がかなり安いので、100円前後で食べることが可能です。私のお勧めはフルーツジュースのお店で、ほぼ毎日通っていました。胃腸の調子を整えてくれる気がします。

次は、私がインドネシアでぜひ活用してほしいと思ったことについてです。

一つ目は、移動手段です。私たちが活用したのは主に3つで、アンコット、uber、タクシーです。アンコットというのは、とても安く乗れるバスのようなものです。料金は約20~50円です。そこら中を走っているので呼び止め、降りたい時に「キリ」と言います。たくさん色があり、その色により道のりが決まっています。道のりを検索するサイトもありますので、分からない場合はそれを使います。次に、uberというのは、一般人が運転するタクシーのようなものです。利点としては、乗る地点を指定できることです。街中なら5分足らずで到着します。料金は距離によりますが、日本のタクシーの4分の1くらいの安さだと思います。注意点としては、ぼったくりが多いことです。タクシーに関しては、日本と変わりません。料金はuberと同じくらいです。しかし、やはりたまにぼったくられます。Blue Bird, BRなどがお勧めです。

二つ目は、ランドリーです。インドネシアには、そこら中にランドリーがあります。洗濯物を袋に入れて持っていけば、数日後に洗って畳んで返してくれます。早く欲しければ、「express」と言えば次の日にはもらえます。値段はかなり安いです。Expressでも、1kgで100円くらいです。とても便利なので、ぜひ使ってみてください。

留学の醍醐味として、観光に行くことは大事だと思います。ジョグジャカルタやジャカル

タ、バンドンにバリ島、ギリ島と、多くの場所を訪れました。スキューバダイビングでウミガメを見れたことや、インドネシアの雄大な遺跡を見れたこと、みんなでお酒を飲んだこと、様々な国の人たちといろいろな会話をしたことも一つ一つが良い思い出です。やはり、違う文化に

触れる機会はそうそう無いので、留学というものはとてもいい経験になります。問題も多々ありますが、それ以上に価値のあるものを多く得られた気がしました。

最後になりましたが、支援をしていただいた工業会にお礼を申し上げます。

ACS2016への参加と欧州滞在

大学院電子情報工学専攻博士前期課程

1回生 山口 晃 右

今回参加した学会は、ADVANCED COMPUTER SYSTEMS 2016 (以降、ACS2016と呼びます。)です。主として、AI、ソフトウェアテクノロジー、バイオメトリクスやITセキュリティに関する研究者が集まるカンファレンスです。学会の会期は2016年10月19日～21日の2泊3日で、ポーランドのミエンジズドロイエにある、Amber Baltic Hotelで開催されました。学会に参加するにあたって、6泊8日の欧州渡航を計画しました。学会開催地のポーランドへは、隣国のドイツを通じて入国しました。また、上記での滞在期間以外は、ドイツのベルリンとポーランドのシュチェチンに滞在しました。

以降、上記の期間に得られた知見や感想について述べます。ただし、今回が人生初の海外渡航、人生初の海外発表であったため、得られた知見や思うところは数多くありました。本報告書では、特に重要と考える事柄について記述します。

まずは、ACS2016に参加して得られた知見

について述べます。

発表自体についてですが、完全に失敗したといえます。語学力的な面での事前の学習不足が、主たる原因といえます。発表後に得られた教訓として、単純な英語の学習のみでは、専門的な発表の場では通用しないという点です。工学系に限らず、専門知識を有する学会発表の場では、普段は聞きなれない単語や、日常使用しない意味で利用される常用単語などへの理解が要求されました。今後海外で発表する場があれば、語学力の十分以上の習得が必要と考えます。

一方で、語学の習得に対するモチベーションは高まりました。前述したことから、発表に対する大きな悔い、というのが理由の一つです。更に、多言語圏の人種と英語を通じてコミュニケーションを図ることが、非常に楽しいと感じた、というのも理由です。学会の会期中は、主催大学所属の博士と同室で過ごしました。その方とは、私の拙い英語でもある程度の対話ができ、名刺交換する程度関係を築くことができ



ました。語学勉強を通じて、今後もこの様な経験を重ねていきたいと思えます。

発表自体や語学に関して以外でも、学会を通じて、海外の研究者の研究の流行や海外の学会のプログラム構成など、様々な事柄について知ることができました。

学会の前後の欧州での滞在について述べます。学会前後の数日は、ほとんど移動日という扱いでした。その中で、日本とは全く異なる交通機関の利用方法や買い物の方法などの、日常

生活に関する一部の所作について学ぶことができました。学生の中に、海外の文化や生活様式に触れることができたのは、大きな収穫であったといえます。

最後に、今回海外発表に参加するにあたって、工業会の皆様のご支援無しでは実現することができませんでした。ご支援いただきました、工業会所属の皆様と、その関係者の皆様に、心からお礼申し上げます。

留 学 報 告 書

環境建設工学科

3回生 大 城 一 輝

この度、8月末から12月末までの約4か月、韓国の蔚山広域市内にある蔚山大学へ交換留学生として留学した。ここでは留学での生活や得たものなどを書こうと思う。

留学中は大学内にある寮に住んでいた。食事もある寮にある食堂を使っていて、洗濯なども寮で行えたので生活面ではあまり苦労はなかった。授業は5つの授業を履修した。5つの内3つが英語で、2つが韓国語であった。今回の留学で一番苦労したのは授業で、私は韓国語が話せないし、かといって英語もそれほど理解できるわけではないので、黒板を見て授業についていくことが精いっぱいだった。しかし、最初のころに戸惑っていた英語の授業は数か月もすれば少しだけではあるが聞き取れるようになった。周囲の環境に慣れたのもあるだろうが、英語のリ

スニング力も多少向上したと思う。韓国語の授業は相変わらず黒板だけを頼りに授業を理解していたが、授業を通して仲良くなった韓国人の生徒も協力してくれて、授業の説明や、テストの勉強を見てくれた。今回留学で単位を取得できた大きな要因だ。テストは日本と同じで中間・期末と2回テストがある。私は日本人という事で特別に英語でテストを受けさせてもらうことが何度かあった。

留学中、韓国語が話せないと困る場面（日本への荷物の郵送等）が何度もあった。そのようなときも韓国人の友人に助けてもらっていた。普段よく会う友人は日本語の話せる韓国人で、留学中は何度も助けてもらった。その友人とは今でも連絡を取り合うことがあるくらい仲良くしてもらっている。私は今回の留学まで海外へ



行くという経験をしたことがなかった。だから最初は異文化との交流をすることに緊張していた。しかし実際現地に行ってみると、向こうの生徒たちは私を歓迎してくれて、言語が通じなくてもちゃんと通じ合えるものだと感じる事が出来た。また、買い物や外食などの生活面でも言葉が話せなくてもなんとかなることが分かり、これまで持っていた海外生活のイメージは完全になくなった。今回の留学で海外への抵抗がなくなったのをきっかけに、留学が終わった

今ではまた海外へ旅行でも観光でも行ってみたいと思うようになった。また、留学に行って一番思うのは英語の重要性である。海外で現地の言葉が話せなくても英語を使えば交流は簡単に行えることが今回の留学でわかった。次にもし海外に行くことがあれば、英語を話せるようになって、今回よりも円滑に国際交流をしてみたいと思う。

今回の留学につきましてご支援をいただいた工業会の皆様にお礼を申し上げます。

第7回ビスマスを含む半導体に関する ワークショップ（上海）への参加

大学院電子情報工学専攻博士後期課程
3回生 パラビ キサン パティル

まず最初に、2016年の7月24日から27日まで上海で開催された「第7回ビスマスを含む半導体に関する国際ワークショップ」に参加するための旅費のご支援をいただいた工業会に心より感謝いたします。おかげさまでこのワークショップに参加することができました。

上海浦東空港に降り立った瞬間から、私の上海の第一印象は決定的です。ホテルに向かうタクシーの車窓からは、密にそびえる高層ビル。上海は美しく実にすばらしい。東京のような街です。

このワークショップで、私は「分子線エピタキシー法で成長したGaAsBi/GaAs多重量子井戸の発光ダイオード」という題名で口頭発表をしました。GaAsのAsを一部Biに置き換えたGaAsBiはここ数年急速に興味をもたれるようになった混晶半導体です。それは、近赤外から遠赤外まで非常に幅広くエネルギーギャップを変えられるからです。実際、このワークショップの主なテーマはGaAsBiとその関連の材料です。GaAsとGaAsBiの多層膜でできた多重量子井戸は赤外発光デバイスの本命候補であると見られています。私たちはこのGaAsBi/GaAs多重量子井戸の構造と光学的品質を改善するため分子線結晶成長法にこれまでに試されてこなかった方法を適用しました。GaAsBiと

GaAsを200℃の温度差を付けて結晶成長する方法です。これによってBiがGaAs層にも取り込まれる問題を解決できることを示しました。“The paper is open for discussion”とセッションチェアが質問を促すと、私は非常に多くの質問とコメントをいただくことになりました。多くの人にこの研究成果が素晴らしいと言ってもらいました。セッションチェアのドイツのマールブルグ大学のケルスティン・ヴォルツ教授にも私の発表を喜んでもらうことができました。この国際ワークショップは、Biを使って研究している世界の研究者の前で私の博士コースの研究を紹介するよい機会となりました。いろいろな背景を持った研究者や同じ研究テーマでも異なる視点を持った研究者と議論できたことに喜





んでいます。私の研究がさらに革新的に良くなるようなアイデアや提案をいただくことができました。

このワークショップの特別講演では、いま何が最もホットなのかを知ることができました。また、口頭講演からは多くの新しい研究を知ることができ、これからの研究の企画に役立てることができそうです。口頭講演の間にあるコーヒー・ブレイク（このワークショップではティ・インターバルと呼んでいました。）がポスター発表のセッションになっていました。このポスター発表のセッションで、多くの研究者と話す機会をえることができました。彼らの研究について彼らと話すことができ興味がわきま

した。このワークショップに参加してBiに関係した材料を研究する意欲が一層わいてきました。

国際ワークショップの組織委員会は、学術講演のプログラムに合わせて、西塘（シータン）という水郷の古い町を巡る遠足や上海の地元のレストランでの晚餐、上海観光が組み込まれ、中国の文化や伝統を知ることができました。これらの行事にも大変感激しました。

最後に、この会議に出席するに当たり、ご指導いただいた下村教授に御礼申し上げます。またワークショップへの参加に「愛媛大学工業会」より旅費の支援をいただき、関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

国際学会 報告書

大学院生産環境工学専攻博士前期課程
2回生 太田 祐一郎

この度は、国際会議 International Conference on Sciences, Engineering and Technology Innovations 2017の参加につきまして海外研修旅費の補助をしていただき、有り難うございました。以下に、1,000文字程度にまとめた学会の感想を紹介します。

2017年3月15日から17日の間で開催された国際会議International Conference on Sciences,

Engineering and Technology Innovations 2017に参加し、多くの経験を得ることができました。中でも、一番痛感したのは英語でのプレゼンテーションの難しさです。日本語でさえも自分の研究成果を分かりやすく伝えることは難しく、10分という短い時間の間に相手に理解してもらわないと立派な発表とは言えません。英語は日本語と違って曖昧さでカバーすることは

きず、はっきりとした表現でないと相手には伝わりません。私はセッションの一番目の発表で、事前の準備に手間取っていたこともあり、早口での発表になってしまいましたが、作成したパワーポイントの資料にレーザーポイントを当てながら順序良く説明をすることはできました。また、質疑応答のときに何度か質問をされました。はじめの質問の内容としては自分の研究で用いているロボットの構造を示したスライドを見せてほしいというものでした。外国人のネイティブの英語を聞き取るのはかなり難しく半分以上理解はできていなかったのですが、なんとか聞き取ることができ、スライドを見せることができました。また、座長であるJoseph C Chen氏から質問がありました。内容は研究で使用している遺伝的アルゴリズムといった最適化法内のパラメータはどうやって決定しているの?といった質問でした。言葉選びが難しく、うまく文章にして答えることができませんでしたが、なんとか「試行錯誤的に」とだけ伝える

ことができました。座長であるJoseph C Chen氏も理解してくれた様子でした。このJoseph C Chen氏が明るい方であったため、会場やセッション内の雰囲気も良く、気楽に発表や質問をすることができました。自分の発表が終わり、気が抜けたのもありましたが、一番強く思ったのは英語をもっと学んでおけばよかったという気持ちでした。特に、質問の答え方をもっと上達したいと思いました。セッション内の他の発表を見ても、自分たちの発表のクオリティは高く、研究のレベルも高いと思いましたが、質疑応答に答えられないといった点で損をしていると思いました。今後、英語の能力をもっと上達させ、自分の研究を上手く相手に伝える力を育みたいと強く思いました。自分は謙虚であり、消極的な部分もあるので日常的に積極的に外国人とコミュニケーションをとり、恥ずかしがらずに英語を使えるようになりたいと思いました。今回の国際会議は小さなミスもありましたが、自分にとって非常に良い経験になりました。



国際学会論文発表研修報告書

大学院生産環境工学専攻博士前期課程

2回生 陸 益 峰

私は、2017年3月15日から3月17日の間に台湾・台北で開催されたICSETI 2017 (International Conference on Sciences Engineering and Technology Innovations 2017) に参加し、“Development of Good-Appearance Prosthetic Hand Controlled by Myoelectric Sensor” というタイトルで発表を行いました。

今回のICSETI 2017は、私にとって人生で初めての国際学会でした。論文執筆、学会登録、発表資料作成に至るまで準備に3ヶ月かかりました。発表は、3月17日にシェラトン・グランデ台北ホテルで行われました。発表の前日に、参加登録を行い、会場の雰囲気を感じました。

発表の当日に、私は、Mechanical & Industrial Engineeringセッションの会場で、「筋電義手」の研究成果を世界中の研究者の方に紹介しました。発表の最初は、少し緊張しましたが、発表

を進めるとともに、緊張感はどんどん解消しました。発表後、聴衆から4つの質問を受けました。質問が終わってから、ほかの研究者たちの発表を傾聴しました。

今回の国際学会発表を通じて、自分は大きく成長したと感じました。しかし、自分の専門知識の不足を認識し、英語力の必要性を実感しました。

学会参加以外にも、台北での滞在は、私にとってとても充実した日々でした。台北国立故宮博物館や中正記念堂などの観光地も訪れ、さまざまな台湾の文化を体験しました。

最後に、今回の国際学会で発表する貴重な機会を与えてくださった研究室の岡本伸吾先生、李在勲先生に、またいつも支えてくれた研究室の仲間たちに、そして支援をいただいた工業会に心より感謝いたします。



国際学会で発表中の様子



学会会場（先生方と仲間たちと記念撮影）



台北国立故宮博物館での記念撮影

国際学会に参加して感じたこと

大学院生産環境工学専攻博士前期課程

2回生 安永将也

私は2017年3月15, 16, 17日に開催された International Conference on Science, Engineering and Technology Innovations (2017 ICSETI) に参加させていただきました。

台湾へは松山空港から直接便が無いので関西国際空港経由で台北の桃園国際空港に向かいました。また市内の交通は地下鉄が張り巡らされており想像よりもすごく発展していると感じました。気温は愛媛県よりも5度ほど高く薄手の上着程度で過ごしやすい気温でした。

本場の台湾料理は、なじみのない香辛料のにおいと味に少しなじみませんでした。

学会発表は、知能システム研究室で3年間続けた天井に吸着しながら走行するマルチコプターに関する研究「Motion Control and Computer Simulation of a Quadcopter Having Adhering Function to a Ceiling」というタイトルで発表させていただきました。2回目の国際学会ということで、良い緊張の中で発表できたと感じました。しかし、質問ではネイティブな英語を聞き取ることができずあたふたしてしまいました。自分の英語力の無さを痛感しました。ネイティブな会話を聞き取れるようにもっと努力し



ていかなければと思いました。

国際学会参加を通して、日本での普段の生活の中では体験のできない貴重な体験をすることができました。さらに、今回の発表の経験を自分自身の成長の糧にすることができました。

謝辞

論文の添削や発表指導など懇切丁寧なご指導とご助言を賜りました李在勲准教授ならびに岡本伸吾教授に深く感謝を申し上げます。

また、今回の学会参加にあたり旅費のご支援をいただいた愛媛大学工業会の皆様に厚く御礼申し上げます。



学生活動援助費（機能材料工学科）－新入生合宿研修の報告

機能材料工学科 青野宏通（工化61）

機能材料工学科では毎年工業会の学生活動援助費をこの1泊2日の新入生合宿研修の費用の一部に充てさせていただいております。お陰さまで今年度も新入生が経費負担することなく実行することができ、たいへんありがたく思っております。平成29年度については既に4月中旬に合宿研修を行い学生活動援助費を使用させていただいておりますので、ここでは最新の平成29年度について書かせていただきます。

この1泊2日の国立大洲青少年交流の家での合宿研修も6年目となり、新入生（68名）全員、教職員約10名、大学院生数名が参加しました。毎年のことですが、学生自身が機能材料工学科で学んでいく為の目的や仲間を強く認識するためのきわめて大切な研修であると考えております。今年度は学科長という立場で2回目の参加となり、「学科の紹介」では、卒業生の進路を具体的に示し、「4年後または大学院修了の6年後の自分を強く意識する」ことを述べ、「進学」や「留年」について考えさせました。その間、アルコールパッチテストを新入生全員に行い、アルコールの怖さについても述べました。また、「新入生へのアドバイス」ということで、今年度から大学院に進学した3名の先輩から、4年間自分が学んできたこと、後悔したこと、良かったことなど、ざっくばらんに話をしてもらい、新入生も4年後の自分を意識できたのではないかと考えられます。

その後、教職員や大学院生を交えた夕食のバーベキューの懇親（写真1）の後、夜は材料懇談会ということで3組に分かれ、担当教員から「材料の面白さ」についての講義や実験を行いました（写真2）。翌日は、朝の集い、朝食の後、バスで移動し、新居浜の銅山記念館での研修（写真3）を行い、別子銅山の歴史について学びました。終了後、大学に戻り研修は終了です。

この研修は、教職員や大学院生と話をする良い機会でもあり、研修後にとったアンケートで

は68名中67名が参加してよかったとの回答を得ており、今年も新入生にとって良いスタートとなったのは間違いありません。この援助のおかげで今年も充実した新入生研修となりたいへん感謝しております。



写真1 バーベキューによる懇親

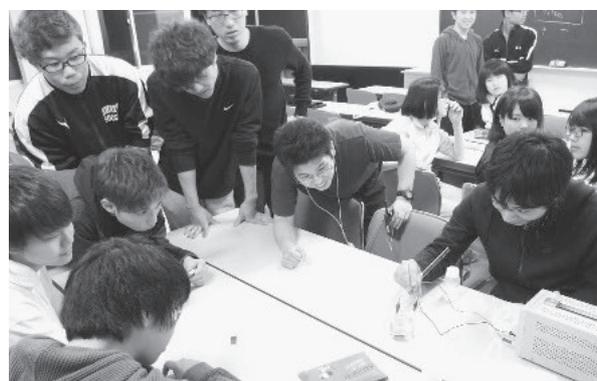


写真2 材料懇談会（材料の面白さ）



写真3 研修後の集合写真（銅山記念館）

学生活動援助費報告－情報工学科平成29年度新入生オリエンテーション

情報工学科 樋上喜信

情報工学科では、新入生の歓迎と、新入生と教員、および新入生間の交流・親睦を図る目的で、「新入生オリエンテーション」を毎年実施しています。これは「新入生セミナーA」という科目の中で行われるものです。例年、松山城天守閣を見学し、本丸広場で昼食の弁当を食べるという内容で行っていましたが、今年はあいにくの雨模様となり、愛媛大学ミュージアム見学と、講義室における交流という内容に変更し実施しました。

当日は、新1年生86名、ティーチングアシスタントの大学院学生10名、教員8名の合計104名が参加しました。まず、新入生10名程度、大学院学生1名、教員1名で班を構成し、班ごとに愛媛大学ミュージアムを見学しました。ミュージアムでは、「進化する宇宙と地球」「愛媛の歴史と文化」「生命の多様性」「人間の営み」の各展示ゾーンを順に見学し、学生たちは、愛媛大学で様々な研究が行われていることを実感し

たようです。

ミュージアム見学後は、講義室にて、新入生と教員、新入生間で親睦を深めるためのワークショップを行いました。そこでは、各班において2人ずつのペアを組み、3～5分程度で自己紹介を行い、お互いの共通点などを見つけて、課題シートに記入するような活動を行いました。講義室は大変にぎやかな状態となり、皆楽しそうにお互いの趣味や高校時代のクラブ活動などを話していました。新入生の中には、地元を離れて愛媛大学に入学してきた学生も多く、友人がまだ少ない状況で、このような活動を通して多くの人と仲良くなれたように思われます。活動の後は、昼食のお弁当を食べながら、さらに話の輪が広がっていました。

最後になりましたが、工業会様にはお弁当の費用の補助を頂き、この場を借りまして厚くお礼申し上げます。



教室にて出席確認とグループ分け



愛媛大学ミュージアムの見学



愛媛大学ミュージアムの見学



グループワーク

茨城支部だより

茨城支部長 中村 喜久男 (機38)

一 本年より当支部は 東京支部に統合して頂きますー

愛媛大学工業会の会員の皆様、茨城支部を本年より、東京支部に統合して頂く事に決まりました。

茨城支部は前身の国領会茨城支部から通算すると50年以上の歴史を持つ支部であります。最近では会員の減少が特に顕著で、休会状態が続く、東京支部鳥海支部長とも相談の上、看板を降ろす事に致しました。

今後は東京支部の会員として、活動してまいります。

茨城支部の名前が消えるにあたり、当支部の歴史を何処かに遺して置きたく、第31号会報に掲載させて頂く事になりました。以下が、茨城支部の歴史であります。

1. 茨城支部の前身

昭和39年の秋頃、武田先生（〈元〉愛媛大学名誉教授〈電25〉）から、1通の案内状が届きました。永らく懸案の国領会茨城支部を結成致したくと、日立市在住の同窓者に招集が掛かりました。11月初めに、設立総会が開かれ、十数名の参加者で、支部結成がなりました。私は日立製作所に入社して2年目で、お手伝いをさせてもらい、翌年には、数学の佐々木重吉先生を茨城の地にお招きしたのを記憶しています。この支部が昭和58年に愛媛大学工業会茨城支部に引き継がれました（昭和43年発行の国領会報第1号に茨城支部の記載あり）。

2. 茨城支部総会の実績

(1) 第1回支部総会（設立総会）

昭和58年11月19日、初代支部長高月氏（電32）のもと、23名の参加者で開催され、本部よりは宮崎理事長、二神先生と、吉永先生が遠く茨城

の地までおいで下さいました。

(2) 第2回支部総会

昭和59年11月11日、高月支部長以下22名の参加者で、本部よりは宮崎理事長、姫野先生がご来駕。

(3) 第3回支部総会

昭和62年10月24日、高月支部長以下22名の参加者で、本部よりは宮崎理事長、矢野副理事長、黒河先生がご来駕。

(4) 第4回支部総会

平成7年4月1日、高月支部長以下18名の参加者で、本部よりは矢野理事長、有吉先生がご来駕。

(5) 第5回支部総会

平成9年11月29日、高月支部長以下17名の参加者で、本部よりは矢野理事長、高松先生がご来駕。この時支部長の交代が決まり、次年度以降、中村（機38）が支部長に決まりました。

3. 茨城支部の活動内容

第1回から第5回までの支部総会を、初代高月支部長のもとで、活発に、15年間にわたり続け参りました。しかし、私に代わるや否や、色々な変事が続きました。

支部設立時の主要メンバーの70%が日立市から、出て行かれました（高月支部長も）。

そんなこんなで、2代目支部長は15年以上にわたり、茨城支部を休会状態にしてしまい、この間、招待を受ける東京支部の総会に参加して、最終的に、東京支部に統合して頂くことに決めたわけです。平成15年に茨城支部のエリアの半分相当する県南地区は、東京に勤務する方の多い地区として、東京支部に組み込まれております。残りの県北、県央が今回、東京支部に統合して頂く事になりました。よろしくお願ひします。

東京支部報告 2016年4月～2017年6月

東京支部長 鳥海基忠 (機54)

1. 活動状況

①支部総会+講演会+懇親会, ②関東圏他学部同窓会/土木海洋会の総会参加, ③支部長は校友会首都圏支部副支部長を兼務し校友会活動(役員会, 就活学生懇親会, 総会/講演会), ④本部理事会参加, ⑤会誌原稿執筆, ⑥工業会ホームページ改編に参加, ⑦東京支部ページの管理

2. 支部総会

案内送付は1,910名。結果, 有効会員数は1,600名であることを確認。2016年10月30日に法曹会館で開催。会員40名, 来賓9名, 出席者合計49名。前年58名から減少。理由は参加常連会員の高齢化が大きい。(1)支部活動報告, (2)平成27年度決算報告, (3)監査報告, (4)平成28年度活動計画, (5)平成28年度予算案, (6)役員改選が審議, 承認された。支部長は鳥海が再任された(3期目)。総会に続き, 青野宏通教授による講演「土壌除染用の“磁石で回収出来る機能性ゼオライト”開発」。続いて, 懇親会。最年長の神田氏(採鉱昭和23年卒業)の乾杯, 工業会武田会長の来賓挨拶, お土産抽選会, 最年少吉田氏による中締めで終了。

3. 重点テーマ

(1) 東京支部会員名簿: 本部名簿, 土木海洋会

関東支部名簿を東京支部名簿に合体した。

- (2) 電子メール名簿: アドレスを把握する会員数は約500名。総会連絡は封書連絡と併用。総会案内以外の連絡は, 電子メールのみ。年間10%以上のアドレスが無効となるため, 封書総会案内でメンテしているのが現状。
- (3) 本部連動: 名簿/ホームページ委員会に支部より委員を出し支部の意見を反映させた。
- (4) 支部ホームページ: 支部判断での掲載が可能になったので積極的な活用。

4. 課題

- (1) 活性化: 総会だけの活動では, 会員の高齢化による総会出席者減少は避けられない状況(過去には都内ツアー, 事業交流会, 落語会鑑賞などを実施)。平成卒の会員把握が全くできていない。
- (2) 役員減少: 前年は役員数9名であったが, 3名が首都圏から転出, 1名は起業して多忙のため実質5名。運営負荷軽減, 組織の若返りが急務。
- (3) 活動拠点の危機: 各学部同窓会支部と校友会の拠点であった田町の愛大サテライトオフィス東京が閉鎖。船堀の産学官連携プラザに移したが, ここも9月に閉鎖予定。今後の活動拠点が不明に。



平成28年度東京支部総会

5. 2017年予定

(1) 支部総会は2017年10月21日に法曹会館で開催
催 連絡先：kogyukai.tokyo@gmail.com

(2) 若手をターゲットとした支部月例講演会を
計画

東海支部活動便り

東海支部長 兵頭 修 (機46)

愛媛大学工業会東海支部(愛知, 三重, 岐阜, 静岡)の会員の皆さん! 特に, 今年, 愛媛大学工学部を卒業された新社会人の皆さん! 沢山の夢を持って新しい人生航路に旅立たれ, ご活躍中と思いますが, ところで, ほっと一息入れて, 愛媛大学工学部の卒業生仲間とお話ししませんか? 卒業式の際に, お話を聞かれたと思いますが, 工学部卒業生の集まりである東海支部総会で, 東海4県のような会社で, 様々な経験を積まれた諸先輩たちと気楽に話し合ったり, また, 愛媛大学の近況を恩師の教授から聞いたりして, 将来の会社生活につながる様々な貴重な情報を楽しく安価に入手してみませんか?

実は, この数年間, 東海支部総会への参加者は, 20名前後で推移していますが, 東海支部会員数(646名)からすると, この参加者の人数は寂しい限りです。そこで, 今年も, 参加者全

員を, トヨタ産業技術記念館見学に招待いたします。技術屋としての好奇心を思いっきり燃焼させ, ぜひ, ぶらりと, ご参加願います。そして, 諸先輩方の貴重な体験談や初々しい後輩たちのまぶしい活躍ぶりを, 一緒に食事しながら談笑し合う, 楽しいひと時を持って頂ければ, 幸いです。また, 現役バリバリの教授をお招きして, 愛媛大学の近況報告を伺い, 世界に向けて活躍する愛媛大学工学部の逞しい姿を, 直接肌で感じて頂き, その卒業生であることを誇りに思って頂ければ, 幸いです。

最後に, お近くの愛媛大学工学部の卒業生を見つけて, お互い, お誘いの上, 今年の東海支部総会に, ご出席頂きますよう, お願い申し上げます。

(2017年10月頃, 名古屋JRタワーズ内居酒屋で開催予定/詳細は後日御案内)



愛媛大学工業会役員会の皆様 (2017年5月21日役員会(愛媛大学にて))

*毎年開催される役員会に, 全国の支部長が集まり, それぞれの活動報告と行事計画が報告され, 情報交換いたします。東海支部としましては, 新入社員の皆さんの東海支部総会初参加を, ぜひ, 報告したいものです。

平成28年愛媛大学工業会近畿支部の総会&懇親会報告

近畿支部長 渡 邊 武 晴 (機42)

1. 支部活動状況

1) 平成28年度総会&懇親会

近畿支部では平成28年度総会&懇親会を11月26日(土)に大阪第一ホテルで開催しました。

当日は工業会本部より武田壽会長，学校より機能材料工学科の木村正樹先生をお迎えし，総勢40名の出席者（昨年度より9名多い）での開催となりました。

総会では，支部の活動状況，新体制，会計などが報告通りの内容で承認されました。

引き続き行われた懇親会では，武田会長からは工業会の取り組みの状況や課題のお話を頂きました。また，木村先生からは「ヒメダイヤの合成と弾性定数測定」に関する最新の研究成果について，プロジェクターを使って分かりやすくお話し頂きました。

続いて木村先生の乾杯のご発声で懇親会が始まりました。学校時代の懐かしい話や近況を語り合ったり，初めての方と名刺交換したりで賑やかな懇親会となりました。

冶金39前田武会員より「熟田津からの飛翔」-海軍・局地用撃墜戦闘機“紫電改”-と題した大変興味深いレポートを披露いただきました。このあと出席者全員が順番に近況を報告し合い，最後に全員で愛媛大学学歌を唄った後に，金山幹事（生機45年）の万歳三唱で会を締

めくり来年も元気に再会を約束して閉会となりました。

☆次年度（平成29年）の近畿支部総会&懇親会の予定

- ①日時 平成29年11月25日(土)
11：00～14：00（10：30より受付）
- ②場所 大阪第一ホテル
（JR大阪駅前の大阪マルビル内）
〒530-0001 大阪市北区梅田1-9-20
TEL 06-6341-4411
〈JR大阪駅から徒歩2分〉

《総会への出席者》

工業会	武田 壽会長	機械H1	池元眞佐美	冶金49	橋本 正明
機能材	木村正樹先生	機械H6	箸尾 勝	院冶金53	外島 信道
機械42	渡邊武晴支部長	生機45	(幹)柏原 繁	電気38	湯本 秀明
機械31	小林 茂宣	生機45	(幹)金山重治	電子48	(幹)三輪幸一
機械33	佐々木武雄	生機45	河端 豊	電子58	和田 弘
機械37	(理)丸山明彦	生機45	田坂 悼雄	電子H7	平林 孝章
機械38	堀内 純治	生機56	青木 透	院電子H5	(幹)峯山佳之
機械39	黒河 昌洋	冶金39	前田 武	院電H28	岸田 貴志
機械41	押条 雅英	冶金45	前田 和彦	工化39	石川 功
機械41	松島 秀典	冶金45	池上 博志	応化H7	中西 健太
機械47	秋本 龍夫	冶金45	布居 徹	院資化61	黒住 誠治
機械48	(幹)多田博幸	冶金46	三好 良一	土木48	山下 明
機械52	中村 幸雄	院冶金47	富田 和幸		
機械52	河井 勝吉	冶金49	(幹)梅村泰史		



平成28年度近畿支部総会

③会費 3,000円

2) 校友会との連携

2月28日(火)に、大阪梅田のブリーゼプラザにおいて、校友会主催で就活生60人と近畿圏在住の卒業生等28人による情報交換会が開催され、工業会近畿支部から5名の会員が参加して学生たちと就職活動に当たっての注意点や経験話等の情報を交換しました。

2. 今年度の近畿支部役員

	氏名	学部	卒年		氏名	学部	卒年
支部長	渡邊 武晴	機械	S42	幹事	多田 博幸	生機	S48
理事	丸山 明彦	機械	S37	幹事	三輪 幸一	電気	S48
幹事	白石 健	生機	S45	幹事	梅村 泰史	冶金	S49
幹事	金山 重治	生機	S45	幹事	山崎 裕司	機械	H5
幹事	柏原 繁	生機	S45	幹事	峯山 佳之	院電子	H15
幹事	戸川 悦男	機械	S46				

岡山支部報告

岡山支部長 石井 正 男 (機43)

岡山支部の活動状況について、以下にご報告させていただきます。

1. 支部役員会 (兼) 親睦会 (平成28年7月16日)
2. 特別講演会 (平成28年11月19日)
3. 支部総会・懇親会 (平成28年11月19日)

支部役員会では工業会本部所管の名簿管理システム更新&工業会ホームページ改善に関する対応、特別講演会&支部総会・懇親会の準備および支部役員交代等について協議した後、参加者(18名)で近況を語り合っ親交を深めました。

特別講演会(講師:愛媛大学/野村信福先生、演題:愛媛大学航空力学研究会・二宮翔会と歩む研究生活)では、先生のカラス型人力飛

行距離の記録更新にチャレンジする学生への指導を通して“無理して限界を知る”&“ものづくりの楽しさを知る”ことの大切さを訴えられていたことに感銘を受けました。核融合、液中プラズマ等々内容は盛りだくさんで、若者の理工系離れが進む中で先生の理工学教育に対する熱い思いが伝わる素晴らしいご講演でした。

支部総会・懇親会ではご来賓として工業会から武田壽会長、大学から野村信福先生をお迎えし、工業会および大学の近況をお話いただき、総勢35名での開催となりました。支部状況報告、役員交代、会計報告が行われ、賛成多数を以て承認されました。また、岡山支部として野村先生への感謝の気持ちを込めて二宮翔会に僅かながら寄付金を贈呈しました。



平成28年度支部総会/2016. 11. 19 アークホテル岡山にて

懇親会は、柳井誠一氏（電23）の乾杯で開会し、出席者の自己紹介・近況報告では岡部和義氏（機31）から備前焼・陶芸教室の紹介、備前焼プレゼント等で親交を温めることができ、同ホテルで行われた二次会には16名もの参加で大いに盛り上がりました。

平成29年度の支部総会・懇親会は、11月25日の予定で、支部総会前に（講師）稲住元気氏（院情報H14）による特別講演（船用大型ディーゼル機関の紹介と最新動向⇒グローバル経済を牽引する海運市況、ガス燃料船、環境規制対応など）を予定しています。この機会に異業種にも興味をもって参加してみませんか！お待ちしております。

平成29年度は、以下の役員で工業会本部並びに会員の皆様と意思疎通を図りながら支部活性化に努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

支部長	石井 正男(機43)	幹事	藤原 靖典(院機57)
副支部長	深井 孝一(電50)	幹事	天満 真士(土H1)
監事	加藤 一哉(海59)	幹事	多曾田高司(生機H5)
代表幹事	額田 信一(電52)	幹事	野村 修司(院機H11)
幹事	村上 佳教(土44)	顧問	柳井 誠一(電23)
幹事	西 雅彦(電子52)	顧問	岡部 和義(機31)
幹事	藤川 智則(電55)	顧問	黒住 肇(電38)
幹事	多賀谷泰三(生機56)	顧問	黒住 洋司(機41)



平成28年度支部懇親会
2016. 11. 19 アークホテル岡山にて

広島支部報告 (H28年度)

広島支部長 河野 徹 (土42)

1. 平成28年度の行事

広島支部では平成28年11月11日(金)にセンチュリー21広島において支部総会を開催致しました。今回は工業会より池内理事長、大学より矢

田部教授をお迎えし、57名の参加となりました。懇親会では初の試みとして落語会を開催しました。落語を披露して頂いたのは愛媛大学教育学部卒業生で真打の「古今亭 菊志ん」師匠



平成28年度広島支部総会



古今亭菊志んさんの落語会

です。放送設備のトラブルでマイクが使えない事態が発生しましたが迫力ある声で広島支部の話題などを織り交ぜながら本格的な落語を披露していただき参加者一同楽しい時間を過ごすことができました。師匠は広島市の出身でもあり工業会広島支部にとってもご縁がある方で、その後の懇親会では多くの会員の方が交流を深めることが出来ました。

また広島支部では校友会中国支部立上げを目指しており法文学部から3名、農学部から4名の代表者の方に参加していただき校友会立上げについて話し合いを実施しました。今年は岡山支部と協力しながら校友会中国支部の立上げを具体化していきたいと思ひます。

2. 平成29年度の行事予定

- ①平成29年度 工場見学会 (マツダ株式会社)
日 時 平成29年11月3日(金・祝)
13:00~16:30
集合場所 マツダ株本社ショールーム
- ②平成29年度 総会
日 時 平成29年11月3日(金・祝)
19:00~21:30
場 所 未定
- ③テニス大会: 4月
- ④登山イベント: 10月

高松支部活動報告

高松支部長 谷 喜 文 (院電53)

愛媛大学工業会の皆さま、お元気ですか？
恒例の高松支部大会は平成28年11月18日(金)、

リーガホテルゼスト高松において、大学より情報工学科の小林真也教授、工業会より武田壽会



平成28年冬も近づく11月高松支部総会
小林先生、武田会長をお迎えして工業会の旗の下での集合写真

長をお迎えし、総勢30名にて盛大に開催致しました。

小林先生からは写真などを用いて大学内の状況などをご紹介いただき、武田新会長からは名簿やホームページ刷新など本部近況についてなどお話し頂きました。

出席者は、電気34年の細包博祥先輩を最年長に昭和34～49年卒4名、昭和50～64年卒12名、平成1桁卒7名、平成10年以降卒5名と、各年代幅広く集まり、転勤族、自営業、起業者、OB…様々なキャリアの皆さまと楽しい時間を共有できました。

最後は、「工業会の旗」の下、お約束の記念撮影です。

昨年につづき今年も、GW頃に集まりゴルフをしようということとなり、5月13日(土)に高松グランドカントリー鹿庭コースで行いました。

優勝は土木H3年の猪熊様でGross, Net共1番の好成績でした。



平成29年青葉が目眩しい5月
「高松グランドCC」にて

今年も忘年会シーズン前の11月17日(金)にリーガホテルゼスト高松で高松支部大会を開催予定です。

高松にゆかりの皆さん、年に一度、母校の話や近況報告で盛り上がってみませんか？

高知支部報告

高知支部長 中村考男(鉦40)

高知支部では、総会を平成28年11月5日(土)午後5時30分より、はりまや橋近くの濱長で開催しました。

出席者は本部から武田会長、大学から大学院

理工学研究科教授の藤井先生をお迎えし総勢22名の開催となりました。

総会に先立ち夕部雅丈工学博士(博士生産H13)による「免疫力を高め、心の安定をもたら



2016. 11. 5 第25回高知支部総会 於料亭「濱長」

し、創意工夫などの力を高める瞑想法」と題した講演会を開催しました。瞑想は幸福への万能薬で生きるのが楽になる。瞑想の効果は、ストレス軽減、免疫力アップ、集中力・記憶力が高まる、睡眠の質がよくなる、人間関係がよくなる、そして想像力が高まるなどである。現代はストレスフルだ。人間がストレスを感じると、アドレナリンなどが分泌され、筋肉が収縮し、鼓動を速め、血圧は上がり、超緊張状態になる。上司に怒られると、ストレス反応が起きる。そして、過去に怒られた事で、未来にも怒られるかもしれないと、脳が回転し鬱になってしまう。これを脱するには、今ここに集中することだ。つまり、瞑想によって未来の妄想を断ち切り「今、ここ」に集中するのである。一日10分の瞑想をお勧めする。と言う貴重な話を聞く事が出来ました。

総会では、武田会長から工業会の近況について、藤井先生から大学を取り巻く状況について、話があり、続いて懇親会に入りました。

懇親会では、前回好評でありましたお座敷遊びや「しばてん踊り」を土佐の舞妓さんと共に



2016. 11. 6 黒潮カントリークラブ

行い大いに盛り上がり楽しい時間となりました。

翌日、毎年カシオワールドカップが行われているkochi黒潮カントリークラブで、ゴルフ大会を行いました。当日は良い天気恵まれ、雄大な太平洋を眺めながら和気あいあいと楽しいゴルフでした。ちなみに武田会長のスコアはネットスコア87.2（ダブルペリア）で4位でした。

平成28年度『第24回愛媛大学工業会 愛媛支部総会』報告

愛媛副支部長（支部長代行） 木村正樹（院機54）

【日時】平成28年11月23日（水・祝日）

15：00から19：00

【場所】国際ホテル松山（松山市一番町1-13）

第24回の愛媛支部総会のご報告をいたします。ご来賓として

八尋 秀典 先生（工業会名誉会長、工学部長及び本部からのご出席）

大賀水田生 先生（愛媛大学 副学長・前工学部長及び本部からのご出席）

森 伸一郎 先生（愛媛大学 工学部機械工学科教授及び本部からのご出席）

をお迎えし、また、新社会人として7名と二宮翔会の2名をご招待しました。

若い工業会会員は会費を2,000円と安くしました。先生がたとの久しぶりの再会を喜ぶ光景が見られました。

開会の言葉を司会の渡邊政富副支部長から、開催の挨拶を木村支部長代行から申し上げました。ご来賓を代表して八尋秀典工学部長から、愛媛大学および工学部の近況とご祝辞をいただきました。

総会では、平成27年度支部活動報告と決算および監査報告、そして「役員改選」の議事では、新役員に井堀春生さん（院電H4）、白石晃一さん（電H7）が、ご推薦・紹介にて役員改選が承認されました。その後渡邊副支部長が議長となり、平成28年度の活動計画・予算（案）を説明し、承認されました。

総会後のご講演には、森伸一郎先生から、『災害のリスクマネジメントと認知心理』として、熊本地震における地震の発生メカニズム、被害の現地調査、避難行動、問題点などの興味深い

ご講義をいただきました。テレビのニュースでは、流されなかった貴重な写真やデータも沢山ございました。

記念撮影の後、懇親会に移りまして、山本修嗣会計幹事の進行のもと、八尋先生からご祝辞をいただき、有吉先生の乾杯の後、皆さんご歓談していただきました。アトラクションとして、トーンチャイム演奏（コーラスもついてい

ました）とビンゴゲームで会は盛り上がりしました。最後は矢野顧問に中締めしていただきました。なお、ご来賓を含めて講演では47名、懇親会では45名のご参加をいただいた、意義深い一日となりました。また、平成29年度には、さらに多数のご参加を期待しております。

（なお、これに先立ち、愛媛支部総会実行委員会を都合3回開催しております。）



平成28年度愛媛支部総会

クラス会報告

工業化学科 昭和38年卒業(第1期生) 同期会

渡 部 信 (工化38)

平成16年以降6度目の同期会、ほぼ2年ごとの開催である。今回は卒業から半世紀ぶり、青春の思い出の地・新居浜を平成28年9月20日に訪ねた。当日、生憎と台風16号の襲来、交通事情混乱、荒天下、万難を排して無事各地より参集。一部の予定行程を変更しながらの同期会開催であった。

1日目の午後は山根地区の「別子銅山記念館」へ。田尾館長の詳細な説明を頂き、別子銅山開坑以来の採鉱技術、精錬技術、精錬による煙害対策に取り組んだ状況、近代工業あるいは貿易産業への位置づけ、住友グループとしての礎などなど、系統的に知ることができた。

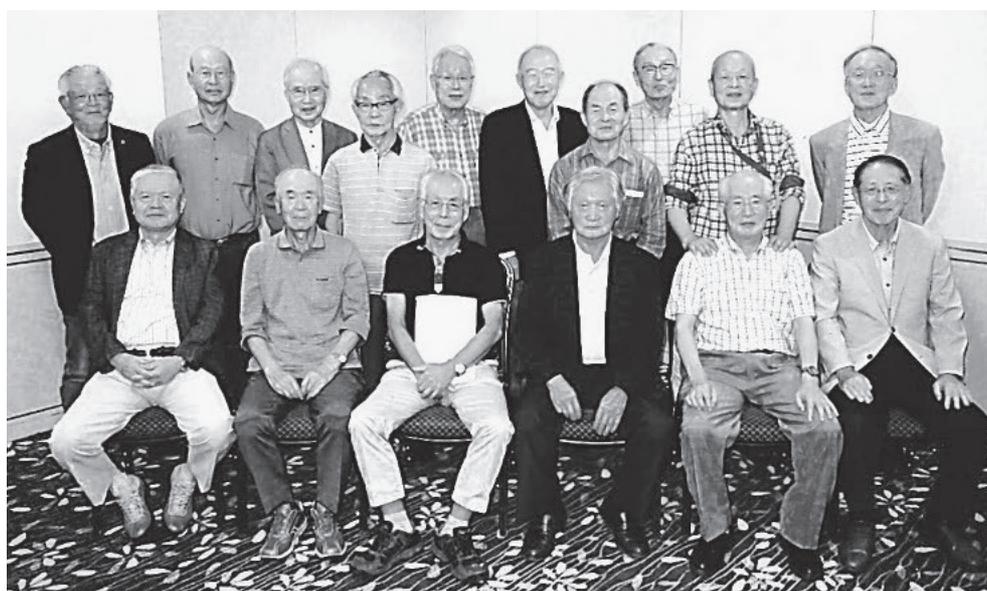
次いで、五十数年前の我らが学び舎(旧工学部)の跡地に設立された新居浜工業高等専門学校へ。中川克彦先生のご案内にて校内一巡、建物の外観は全く異なって面影はないが、木造校舎レイアウト関係など幾分の記憶がよみがえる部分もあり、懐かしいひと時を過ごした。周辺の桜木が巨樹・老木になり、長い年月の経過を覚えた。

宿舎は「リーガロイヤルホテル 新居浜」。参

加者16名にて宴席。講座、先生、友人諸兄の消息など思い出話に花が咲き、各人の近況、健康状況など、ひとしきり語り合い、旧交を温め深更まで談笑が尽きなかった。久し振りに愛媛大学学歌を声高らかに合唱、往時を懐かしんだ。次回の同期会開催は2年後、九州方面と決めた。

台風明けの2日目、バスにて東平エリア(標高750m)の見学。技術専門ガイドさんの詳しい説明を聞きながら、「東洋のマチュピチュ」と呼ばれ、多数の貴重な近代化産業遺産群(選鉱場、貯鉱庫、配電所、東平索道停車場跡など)を保存しているエリアを見学した。現在も植林事業を継続している斜面山肌を遠望できた。帰路、マイントピア別子・端出場エリアで住友接待所・泉寿亭、旧端出場水力発電所遺構などを散策見学。

続いて、幕末から明治の動乱期に別子銅山の経営を支え、日本の近代産業育成に貢献した広瀬幸平の足跡を展示した記念施設と、重要文化財指定の旧広瀬邸を併設した「広瀬歴史記念館」を訪問した。学芸員の説明の中に、ドラマ「八重の桜」の主人公・新島八重と同志社設立



後列：渡部 山田 坂本 小稲 仙波 日和 重見 矢野 太田 小林
前列： 藤井 八木 飯尾 吉田 植田 手嶋

運動の新島襄そして広瀬幸平との交流があったことなど興味深い人間模様を知ることができた。

市内にて遅い昼食会、なごり杯を酌み交わし、それぞれの健康息災を祈念、次回九州での再会を約束しながら、JR新居浜駅頭にて散会した。

別子銅山は江戸初期、山中に銅鉱石露頭の発

見に始まり、昭和48年（1973）閉山まで約300年間の長きにわたり採鉱が行われ、日本経済、産業の近代化を築いた礎の一つであった。採鉱跡、貯鉱庫跡など近代化産業遺産群、関連資料館をめぐり、改めて多くを学ぶことができた有意義な同期会であった。

今回の幹事は渡部（西条）、小稲（松山）、仙波（松山）にて担当。

機械工学科39年卒同窓会

板井 真 澄 (機39)

平成28年10月深まりゆく秋の別府温泉で、2年おきに行っている機械科の同窓会を、ゆっくりと温泉に浸かりながら行うことと成った。会場は別府の老舗旅館『白菊』…メンバーの多くは関東、関西圏からの参加者で交通機関も飛行機、列車、フェリー、自家用車等、数種にわたった。

皆がかなりの苦勞をして別府までの往復を『計画』に入れ、経済的負担も、増えているに相違ないと気になった。

しかし、依頼した通信文を纏めるに当たって、今回の同窓会を楽しみにしている様子が窺

え、期待に応えたい、この地で出来る事としては『おもてなし』の心を感じて頂きたいと、強く思ったのであった。密かに頑張ろうコール！

今回の担当幹事は、別府在住のメンバーは板井のみで地の理の当然と指名を受けたが海を隔てたお隣、愛媛・新居浜の石井英成さんに、支援をして頂いた。主にメンバー各位と幹事間やり取りを、丁寧且つ小まめに調整機能を発揮しながら、こなしてくれたのには頭が下がった。

三々五々集まって同窓会の開始。ウェルカムサプライズとして、『おもてなし』の気持ちを『演奏・唄』に込め二人で披露。冷汗なれど喝



板井 浅井 福島 北川 戸田 浅野 入江 秋山 高須賀
[別府市] [我孫子市] [大和高田市] [小金井市] [茨木市] [大阪市] [姫路市] [東京都大田区] [川崎市]
大西 印南 石井(英) 森 米地 秋田 桑原
[観音寺市] [千葉県佐倉市] [新居浜市] [松山市] [堺市] [さいたま市] [羽村市]

采！ 続く同窓会の司会を森和弘さんに委ねて各メンバーの日頃の状況を発表して頂いた。各々の若さと情熱の火は消えていない～皆さんの現状を、しっかり確認。

二次会はヒットパレードという唄小屋。別室コーナーで個々の懇談に大いに花が咲き、「半世紀前の青春」を皆で享受した。

出席者は少し減って16名だった。やはり病気の為、取り止める人が多い按配だが、本会の出

席率は比較的に高い方。

今回車を利用したのは秋田氏（さいたま）と印南氏（千葉）だが、最長距離走破は秋田氏で岩槻市から（浅井氏同乗）→新居浜（石井氏同乗）→別府→鹿児島（指宿／知覧）の往復を1人が運転、走行3,041kmの老人パワー？炸裂。少なくとも、機械39卒では、記録に残るものと思うので快挙として乾杯！

第13回(平成29年)電気工学科昭和40年卒クラス会

三好永司(電40)

平成6年11月にスタートした昭和40年卒クラス会も、今回で第13回を数えることとなりました。今回は昨年の世界遺産「富岡製糸場」に続き、世界遺産「姫路城」をテーマとして、平成29年3月5日～6日、姫路市にて開催しました。出席者は、井上、上甲、須之内、清家、高山、多賀、田中、中筋、松井、三好の面々で、例年より少なめの10名でした。3月初旬は、諸行事が集中するようで、スケジュールが重なり出席できない級友が数名出てしまいました。会場に選んだ「姫路キャッスルグランビリオホテル」は、近年掘り当てた自慢の温泉を有し、市

内で唯一温泉が楽しめるホテルです。

昭和40年卒クラスは、卒業時35名でしたが、昨秋亡くなられた1名を加えて物故者が3名になりました。懇親会開会に先立ち黙禱を捧げて冥福を祈りました。

懇親会では、料理とお酒を楽しみながら、近況の交換を行いました。話題は例年にも増して病気体験と健康法に集中します。そのような会話も佻しい感じではなく、楽しく交わせる年代になったようです。

幹事の部屋に引き上げての二次会では、健康法の続きのほか、クラス会メンバーに不幸が



あった場合のクラス会としての対応についてや、次回開催について話し合いました。

翌6日は、8時15分ホテルを出発、姫路駅のコインロッカーで荷物を預け、徒歩で姫路城を目指しました。入場券を買い城内に入ったところで、ガイドさんから、本丸をじっくり観るか全体（西の丸を含む）をザーッと観るかの選択を迫られました。折角の機会ですから全体を見ることにしました。この選択があとで足腰に過

大な負担をかけることになりました。キャスルビューが自慢のレストランで昼食をとり、午後、お城周りの観光に出かけましたが、足腰の疲労が著しく、コースをかなり省略して回ることになりました。

来年は清家氏の幹事で関東地区での開催を予定しています。今年都合で参加できなかった級友との再会を楽しみにしています。

生産機械工学科昭和44年卒業同級会

井 上 要 (生機44)

平成28年11月13日(日)・14日(月)愛知県犬山市の「名鉄犬山ホテル」で第5回同級会を開催しました。会員45名の内、15名の出席でした。我が会員の居住地は、四国・中国・関西・関東・中部地区にあり、四国・中国から遠いことから、この地区の参加者が少なくなりました。今年もゴルフは中止となりました。

出席予定者の全員集合により、18時から写真撮影をし、お料理とお酒を頂きながら、各自の近況報告を順に全員が行い、後は隣席者との会話も続きました。出席者小数により、大テーブルの周囲に15名全員が席を設けられたので、移動しなくても顔を見ながら全員と会話のできたので、いつものように席を回ってお酌をし合う

ことはなく、まとまりのある宴会となりました。写真担当の小川君は、全員の写真撮影から着席している会員個人や、隣席数人の集合での写真撮影に大テーブルの周囲を周回しつつ大活躍で、ご苦労様でした。

宴会終了後は別室へ移動しての座談会が23時過ぎまで続いたようです。

犬山市は、会員の横山君が学卒後2年間勤務し生活した土地とのことで、翌日の市内観光案内を会員に勧めたい場所を10か所選んで、参加希望者を募っていました。結局、翌日予定のある人を除き、10名が参加を希望されました。

犬山城、日本庭園有楽苑、成田山、寂光院、桃太郎神社、モンキーパーク、リトルワールド、



明治村等が上がったことでしょうか。私は午前中で回れる犬山城、成田山のみを見物して帰るつもりで、ゆっくりした後に犬山城へ行くと、先行の10人グループが集合写真を撮影した直後に出会いました。そこで彼らと別れ、彼らは下山し、私は登城しました。

今回の主幹事は中部地区の竹久（旧姓 川崎）君、他の幹事は関東・中部地区の森脇君、関西地区の益野君、中国・九州地区の中西・島津の両君、四国地区の篠崎君で、その奉仕に感謝します。

今回の開催地は、四国地区で主幹事は篠崎君、他の幹事は今回と同じ諸君の予定です。詳細は平成29年5月以降に主幹事から連絡頂きます。



すので、多くの参加をお願いします。

出席者：井上、打上、胡、小川、金村、篠崎、島津、鈴木、竹久（旧姓 川崎）、月原、寺尾、中田、益野、森脇、横山

第5回 生産機械工学科(42年入学・46年卒業関係)同期会

林 康 則 (生機46)

平成29年4月11日・12日に香川県琴平町で第5回同期会「こんびら歌舞伎と讃岐うどん打ち体験ツアー」を開催し、17名が参加しました。当日は悪天候のため、東京からの飛行機便が、高松空港でユーターンするなどのハプニングがありました。

初日は金丸座にて歌舞伎公演見学と親睦会。2日目は金刀比羅宮参拝と讃岐うどん打ち体験です。

・歌舞伎公演（15時～18時）

金丸座は、日本最古の現存芝居小屋です。『四国こんびら歌舞伎大芝居』は、全国から歌舞伎



ファンが大勢押し寄せます。

初観劇の方が多く、皆さん堪能したようです。中でも中村雀右衛門演ずる一人二役の早替わりや、筆を口に咥えての曲書きなどすばらしくて見ごたえがありました。また、身替座禅では片岡仁左衛門と坂東彌十郎が恐妻家の夫とやきもち妬きの妻とを演じ、掛け合いはユーモラスで、顔の表情、所作等が豊かで本物の演技を満喫しました。

・親睦会（18時30分～21時30分～23時）

ホテルの近くの京風創作料理の店で開きました。孫・健康・その他いろいろと話され夜遅くまで話に花が咲きました。愛大の学歌で中締めをし、ホテルで2次会をしました。

・金刀比羅宮参拝（8時30分～10時30分）

前日と違って変わって絶好の行楽日和でした。久しぶりの人、初めての人など桜を見ながら785段の階段を杖の助けもあり、なんとか本宮までたどり着くことができました。家内安全、健康を祈願しました。



・讃岐うどん打ち体験（10時30分～12時）

うどんの食べ歩きも良いが自分で打って食べようということでうどん学校へ入学。うどん粉をこねて、音楽に合わせて踏み、麺棒で伸ばし、包丁で切りました。それを大きな鍋で茹でて釜揚げにし、おいしく頂きました。心に残る体験でした。これからは卒業証書も頂いたので自宅でマイ讃岐うどんを食べることができるよう。

・同期会を終えて

今回、池田氏といっしょに幹事をしました。

琴平在住の彼に歌舞伎のチケットを始め、その他諸々のことを配慮して頂き、感謝感謝です。楽しくて充実した2日間でした。皆さん満足して頂いたと自負しております。各人一病息災で活躍されているようで励みになりました。2年後も皆さんに出会い、元気を頂くことを楽しみにしています。本当にありがとうございました。

次回は細田さんを中心に関東での開催です。健康に留意し再会しましょう。

今回の参加者：荒木、安藤、池田、池松、金子、久米、小河内、坂越、高宮、長滝、橋本(一寛)、林、藤井、細田、堀田、御堂丸、山本



平成カラス12号へ

愛媛大学航空力学研究会 二宮翔会

代表 辻 下 新 也 (機械4回生)

2002年に創られた二宮翔会は、今年で創部15年を迎えました。私たちは鳥人間コンテストで優勝することを目標に作られたサークルであり、日々人力飛行機作りに明け暮れています。飛行機は“日本の飛行機の父”と呼ばれた八幡浜市出身の二宮忠八が考案した「カラス型模型飛行器」をモチーフに制作しています。部員は去年に引き続き、新入生を15名獲得でき、工学部を中心とする総勢38人となりました。

私たちは過去に合計6回、鳥人間コンテストに出場しました。2010年にはチーム最高記録である769mを記録し、2011年には過去最高順位である全国5位を記録しています。最近では2015年に714mを飛行しましたが、それ以降は出場から遠ざかっています。2016年大会は機体のフレーム（パイロットが乗り込む部分）の刷新のために出場を辞退し、今年の2017年大会は後述する主翼桁という部材の破損のために、機体の製作ペースが間に合わず、去年同様に辞退せざるを得ない状況になりました。2年連続で大会出場から遠ざかってしまったことは不徳の致すところであります。

しかし、この2年間、私たちは何もしてこなかったわけではありません。新入生の人数が多

いので、これまで上回生が培った知識・技術を受け継ぐべき人数も多くなります。なので、後進の育成にはより一層力を入れてきました。また、主翼桁という約30mもの主翼の中心を通る、言わば背骨のようなパイプが破損したため、そちらについても再設計し刷新しました。

さて、私たちは今年2月に“空への挑戦！日本飛行機の父の想いを空へ飛ばしたい！”と題しましてクラウドファンディングに挑戦し、機体の製作費用を募りました。結果は無事達成することができました。これは一重に応援して下さいの皆様のおかげであります。工業会会員の方々、また各支部からもご支援を賜りました。この場をお借りして御礼を申し上げたいと思います。誠にありがとうございました。

今現在の我々の目標は今年9月に新型機体「平成カラス12号」を完成させ、お披露目することです。最終的には琵琶湖でのビッグフライトを目指します。そのために今後も機体の改良、及び製作に邁進して参ります。応援して下さいの皆様のご期待に添えますよう、精一杯努力して参りますので、今後とも二宮翔会をよろしくお願い致します。



テニス大会

第38回工業会テニス大会報告

十 河 基 介 (生機H4)

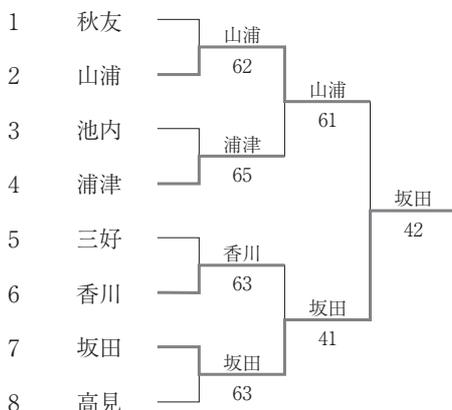
大会前日は雨、予報では当日の天候も雨模様で開催が危ぶまれましたが、参加者の想いが通じたのか雨は大会中に降ることはなく、昭和44年卒業の神谷さんを筆頭に卒業生7名、愛媛大学職員2名を含め総勢46名の参加者で11月19日に城北キャンパスのテニスコートで開催されました。

試合に先立って行われた開会式における池内理事長の挨拶の中で、工業会の紹介や果たしてきた役割などについての話があり、あらためて工業会の存在について気づかされました。本大会は老若男女の区別なく行われており、女性と60歳以上にはハンディが設定されています。学生は選手として試合を盛り上げてくれるだけでなく、運営などの下支えもしてくれており、テ

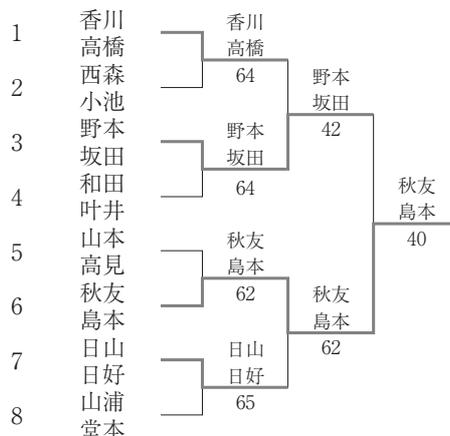
ニスはもちろんの事、卒業生同士での近況報告や、参加者間の交流などを楽しむことができました。各コートで熱戦、接戦が繰り広げられ、その中でも何年か連続で参加してくれている大先輩の神谷さんのプレーは、私たちを勇気づけてくれます。シングルスではハイレベルな豪打対決を制した坂田さんが優勝しました。ダブルスは単複優勝がかかった野本・坂田ペアを秋友・島本ペアが見事に破り優勝、大会は無事に終了しました。

表彰式は今年度からテニスコートで簡単に行う形式となりましたが、テニス大会を通じて、立場や世代を超えて交流を深め、意義深い一日となりました。次回の工業会テニス大会でも、多くの皆様の参加をお待ちしております。

シングルス (準々決勝から)



ダブルス (準々決勝から)



参加者 (敬称略)

神谷 (土44), 藤井 (電52・教員),
池内 (電62), 十河 (生機H4・職員),
日好 (能材H24), 八木 (電H25),
和田 (情H26), 森田 (職員), 山本 (職員)



本部報告

平成29年度愛媛大学工業会役員会議事録

議事録作成：甲斐 博 庶務幹事

日時：

平成29年5月21日(日) 11:10～12:20

場所：

愛媛大学校友会館2階サロン

参加者：

武田 壽 会長，仲田 利通 副会長，谷 喜文 副会長（兼高松支部長），
宮崎 道生 顧問，矢野 紘 顧問，
池内 直之 理事長，藤井 雅治 副理事長，渡邊 政富 副理事長，
都築 伸二 会誌担当常任理事，甲斐 博 庶務担当常任理事，一色 正晴 会計担当理事，
越智 順治 理事，武知 博紀 理事，井上 賢三 理事，友近 榮治 理事，
東山 陽一 理事，渡邊 政広 理事，渡部 公則 理事，木村 正樹 理事，
岡本 伸吾 理事，青野 宏通 理事，平山 和子 理事，
中村喜久男 茨城支部長理事，鳥海 基忠 東京支部長理事，兵頭 修 東海支部長理事，
渡邊 武晴 近畿支部長理事，石井 正男 岡山支部長理事，河野 徹 広島支部長理事，
中村 考男 高知支部長理事，
岡本 好弘 監事（30名）

議案：

会長挨拶：武田会長から挨拶があった。

学内近況：八尋名誉会長の欠席により，青野学科長が代理報告した。

1. 平成28年度事業報告，決算報告，HP報告，名簿システム改修報告について
賛成多数により承認された。
2. 支部特別支援（案）について
賛成多数により承認された。また現時点で申請されている支部行事については理事会で承認されたことが報告された。
3. 平成29年度事業計画，予算案，支部特別支援申請，第31号工業会誌について
賛成多数により承認された。
4. 役員改選案について
賛成多数により承認された。
5. 茨城支部の東京支部への合併について
茨城支部の活動が難しいということで，茨城支部が東京支部に合併されることが理事会で承認された。茨城支部長は理事として残って頂ける。

支部活動報告：各支部長より，報告があった。

以上

議事録署名人：

東山 陽一



渡邊 政広



平成28年度愛媛大学工業会事業報告

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

■支部総会 案内状発送総数12,649通 総参加者数299名(内来賓26名)

支部	案内状発送数 総参加者数(内来賓)	前年比	開催日時	会場	本部からの出席者
東海	631通 20名(2名)	▲10 ▲1(-)	H28.10.15(土)	嘉鮮	武田壽会長 地球深部ダイナミクスセンター 入船徹男教授
東京	1,910通 49名(9名)	+103 ▲9(▲4)	H28.10.30(日)	一般財団法人 法曹会	武田壽会長 機能材料 青野宏通教授
高知	241通 22名(2名)	+2 0(0)	H28.11.5(土)	濱長	武田壽会長 機能材料 藤井雅治教授
広島	1,610通 57名(3名)	+5 +5(+3)	H28.11.11(金)	センチュリー21広島	池内直之理事長 環境建設 矢田部龍一教授
高松	981通 30名(2名)	+5 0(0)	H28.11.18(金)	リーガホテルゼスト高松	武田壽会長 情報 小林真也教授
岡山	894通 35名(2名)	▲3 ▲5(0)	H28.11.19(土) 11時より	アークホテル岡山	武田壽会長 機械 野村信福教授
愛媛	3,896通 46名(4名)	+1,702 +5(+1)	H28.11.23 (水・祝)	国際ホテル松山	工学部長 八尋秀典教授 副学長 大賀水田生教授 防災情報研究センター 森伸一郎准教授
近畿	2,486通 40名(2名)	▲3 +9(0)	H28.11.26(土)	大阪第一ホテル	武田壽会長 地球深部ダイナミクスセンター 木村正樹先生
茨城	活動なし				

■会議

- ・学内委員会……………平成28年4月14日
- ・会長会……………平成28年6月29日, 平成29年1月25日
- ・常任理事会……………平成28年4月18日, 5月18日, 6月16日, 平成29年3月21日
- ・理事会……………平成28年5月29日
- ・役員会……………平成28年6月26日
- ・新年会……………平成29年1月27日
- ・会誌編集委員会……………平成28年7月25日, 8月5日

■会誌第30号発行……………平成28年9月

■講演会

- 【応用化学】平成28年8月3日(水) 4限 塩梅 敏 社長(株式会社NPシステム開発, 工化45)
「起業経験と学生への期待」
- 【電気電子】平成28年12月16日(金) 4限 河村 隆二氏(イノテック株式会社, 院電電H13)
「起業と起業で学んだこと」

■その他

- ・学生活動援助 2 件（機能材料工学科，情報工学科）
- ・HP更新・管理，改善
- ・名簿調査・改善
- ・工学部寄付金
- ・卒業お祝い（504名分）
- ・退職教員お祝い（5名）
- ・テニス大会（平成28年11月19日）
- ・特別広報支援（人力飛行機）
 - *愛媛大学航空力学研究会（二宮翔会）クラウドファンディング達成

■海外研修旅費 合計490,000円

[学 生] 6 件 8 名

	氏 名	所 属 学 科	会議場及び期間	補助金額
1	廣川 貴大 (小林 真也)	大学院電子情報工学専攻 博士前期課程 2 回生	タイ・バンコクにおける国際会議 (H28. 5. 12～5. 13)	8.5万円
2	犬飼 達也 (氏家 勲)	環境建設工学科 3 回生	インドネシア・バンドンユ大学交換留学 (H28. 8. 13～12. 21)	8.5万円
3	山口 晃右 (小林 真也)	大学院電子情報工学専攻 博士前期課程 1 回生	ポーランドにおける国際会議 (H28. 10. 19～10. 21)	10万円
4	大城 一輝 (氏家 勲)	環境建設工学科 3 回生	大韓民国・蔚山大学交換留学 (H28. 8. 29～H29. 1. 3)	3 万円
5	パラビ キサン パティル (下村 哲)	大学院電子情報工学専攻 博士後期課程 3 回生	中国・上海における国際会議 (H28. 7. 24～7. 27)	7 万円
6	太田祐一郎 陸 益峰 安永 将也 (岡本 伸吾) (李 在勲)	大学院生産環境工学専攻 博士前期課程 2 回生	台湾・台北における国際会議 (H29. 3. 15～3. 17)	12万円

* () は指導教員

表紙写真／編集後記

第31号をお届けします。表紙の写真は工学部等技術部実習工場の政岡孝氏が道後温泉冠山展望所から道後温泉本館を撮影したものです。道後温泉界隈は私どもが学生であった頃から比べると格段に整備されており、今年9月下旬には道後温泉別館「飛鳥乃湯泉（あすかのゆ）」がオープンします。

ある方から、「道後温泉本館の大屋根にあるギヤマン（ガラス）が鮮やかな赤色をしているのは、金ごく少量混ぜられているからである」と聞いたことがあります。真偽はわかりませんが、印象深く心に残っています。久しぶりに、日本最古の温泉にゆっくりと浸かって温泉情緒を楽しまれては如何でしょうか。

愛媛大学工業会会誌第31号編集委員

青野 宏通, 井堀 春生, 山本 修嗣, 平山 和子